

注3

大学番号：私135

[平成27年度設置]

計画の区分：大学の設置

注1

認可

湘南医療大学

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人湘南ふれあい学園
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務部

職名・氏名 シム ブチョウ 事務部長 アオキ ユウジ 青木 雄二

電話番号 045-821-0111

（夜間） 080-3787-2474

F A X 045-821-0116

e-mail info@sums.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

保健医療学部

<看護学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	20
4. 既設大学等の状況	22
5. 教員組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	47
7. その他全般的事項	52

<リハビリテーション学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	58
2. 授業科目の概要	66
3. 施設・設備の整備状況、経費	87
4. 既設大学等の状況	89
5. 教員組織の状況	90
6. 附帯事項等に対する履行状況等	116
7. その他全般的事項	118

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人湘南ふれあい学園

(2) 大学名

湘南医療大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒244-0806

神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オオヤシキ フジエ) 大屋敷 芙志枝 (平成6年4月)		
学長	(オオヤシキ フジエ) 大屋敷 芙志枝 (平成6年4月)		
学部長	(イイノ ヤスヒコ) 飯野 靖彦 (平成27年4月)	(カタヤマ ヨウイチ) (テラモト アキラ) 片山 容一 寺本 明 (平成27年6月) (平成30年4月)	体調不良により平成27年4月30日付で辞職(27) 平成27年6月1日付で就任(28) 体調不良により平成30年3月31日付で辞職(30) 平成30年4月1日付で就任(30)
リハビリテーション 学科長	(ツルミ タカマサ) 鶴見 隆正 (平成27年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	4年	80人	年次 人 3年次 10人	340人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80人 () []		80人 () []		80人 (10) []		80人 (10) []		80人 () []		1.15倍	1.13倍	
志願者数	393 () []	- () []	516 () []	- () []	428 (0) []	- () []	536 (0) []	- () []	516 () []				
受験者数	345 () []	- () []	493 () []	- () []	415 (0) []	- () []	492 (0) []	- () []	492 () []				
合格者数	146 () []	- () []	116 () []	- () []	221 (0) []	- () []	131 (0) []	- () []	133 () []				
B 入学者数	100 () []	- () []	82 () []	- () []	102 (0) []	- () []	85 (0) []	- () []	84 () []				
入学定員超過率 B/A	1.25		1.02		1.28		1.06		1.05				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、()書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	100 [-] (-)	- [-] (-)	82 [-] (-)	- [-] (-)	102 [-] (-)	- [-] (-)	85 [-] (-)	- [-] (-)	84 [-] (-)	- [-] (-)	
2 年次	/		97 [-] (-)	- [-] (-)	80 [-] (-)	- [-] (-)	101 [-] (-)	- [-] (-)	84 [-] (-)	- [-] (-)	
3 年次			/		/		97 [-] (-)	- [-] (-)	79 [-] (-)	- [-] (-)	98 [-] (-)
4 年次	/						/		/		95 [-] (-)
計			100 [-] (-)		179 [-] (-)						279 [-] (-)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	100人	3人	平成27年度	3人	0人	学生個人の心身に関する事情(1人) 他の教育機関への入学・転学(1人) 家庭の事情(1人)
平成28年度	179人	2人	平成27年度	0人	0人	留学のため(2人)
			平成28年度	2人	0人	
平成29年度	279人	5人	平成27年度	3人	0人	進路変更(2名) ※除籍(1名)平成30年9月12日承認、平成30年3月31日付除籍となった為追記
			平成28年度	1人	0人	進路変更(1名)
			平成29年度	1人	0人	進路変更(1名)
平成30年度	360人	7人	平成27年度	1人	0人	経済的理由(1名)
			平成28年度	2人	0人	進路変更(1名)、その他(1名)
			平成29年度	3人	0人	就職(1名)、進路変更(1名)、その他(1名)
			平成30年度	1人	0人	進路変更(1名)
令和元年度	354人	0人	平成27年度	0人	0人	
			平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計	1272人	17人		17人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{100} = \boxed{3} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{179} = \boxed{1.11} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{279} = \boxed{1.79} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{7}{360} = \boxed{1.94} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{354} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療保健学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	4後	1			10	6	3	4		兼22
	英語 I	1前	1								兼1
	英語 II	2前	1								兼1
	英語 III	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	文学	1前		1							兼1
	教育学	1後	1								兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	国際関係論	1前		1							兼1
	国際保健医療論	1後		1							兼1
	音楽論	1後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
	薬理学	1後		2							兼1
	社会福祉論	2後		1							兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後		2							兼1
公衆衛生学	2前	1								兼1	
保健行政論	2前	1								兼1	
法学(含日本国憲法)	1前	2								兼1	
生物学	1前		2							兼1	
物理学	1前		2							兼1	
生化学	1後		1							兼2	
環境論	1前		1							兼1	
放射線概論	1後		1							兼2	
哲学	1後		1							兼1	
倫理学	1前		1							兼1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1									兼1
	チーム医療論	4後	1				8	5	9	9	1	兼28
	英語 I	1前	1									兼2
	英語 II	2前	1									兼2
	英語 III	2後		1								兼1
	中国語	1前		1								兼1
	韓国語	1後		1								兼1
	文学	1前		1								兼1
	教育学	1後	1									兼1
	文化人類学	1前		1								兼1
	国際関係論	1前		1								兼1
	国際保健医療論	1後		1								兼1
	音楽論	1後		1								兼1
	栄養学	1前		2								兼1
	薬理学	1後		2								兼1
	社会福祉論	2後		1								兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1								兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1								兼1
	情報リテラシー	1前		1								兼1
	研究法入門	1後		2								兼1
公衆衛生学	2前	1									兼1	
保健行政論	2前	1									兼1	
法学(含日本国憲法)	1前	2									兼1	
生物学	1前		2								兼1	
物理学	1前		2								兼2	
生化学	1後		1								兼1	
環境論	1前		1								兼1	
放射線概論	1後		1				1				兼1	
哲学	1後		1								兼1	
倫理学	1前		1								兼1	

【平成27年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	4後	1			8	5	2	4		兼22
	英語Ⅰ	1前	1								兼2
	英語Ⅱ	2前	1								兼2
	英語Ⅲ	2後		1							兼0
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	文学	1前		1							兼1
	教育学	1後	1								兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	国際関係論	1前		1							兼1
	国際保健医療論	1後		1							兼1
	音楽論	1後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
	薬理学	1後		2							兼1
	社会福祉論	2後		1							兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後		2							兼1
	公衆衛生学	2前		1							兼1
	保健行政論	2前		1							兼1
	法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1
生物学	1前		2							兼1	
物理学	1前		2							兼1	
生化学	1後		1							兼2	
環境論	1前		1							兼1	
放射線概論	1後		1		1					兼1	
哲学	1後		1							兼1	
倫理学	1前		1							兼1	

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1									兼1
	チーム医療論	4後	1					11	5	2	4	兼22
	英語Ⅰ	1前	1									兼2
	英語Ⅱ	2前	1									兼2
	英語Ⅲ	2後		1								兼1
	中国語	1前		1								兼1
	韓国語	1後		1								兼1
	文学	1前		1								兼1
	教育学	1後	1									兼1
	文化人類学	1前		1								兼1
	国際関係論	1前		1								兼1
	国際保健医療論	1後		1								兼1
	音楽論	1後		1								兼1
	栄養学	1前		2								兼1
	薬理学	1後		2								兼1
	社会福祉論	2後		1								兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1								兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1								兼1
	情報リテラシー	1前		1								兼1
	研究法入門	1後		2								兼1
	公衆衛生学	2前		1								兼1
	保健行政論	2前		1								兼1
	法学(含日本国憲法)	1前		2								兼1
生物学	1前		2								兼1	
物理学	1前		2								兼1	
生化学	1後		1								兼2	
環境論	1前		1								兼1	
放射線概論	1後		1		0						兼1	
哲学	1後		1								兼1	
倫理学	1前		1								兼1	

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	4後	1			10	6	2	5		兼25
	英語Ⅰ	1前	1								兼2
	英語Ⅱ	2前	1								兼2
	英語Ⅲ	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	文学	1前		1							兼1
	教育学	1後	1								兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	国際関係論	1前		1							兼1
	国際保健医療論	1後		1							兼1
	音楽論	1後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
	薬理学	1後		2							兼1
	社会福祉論	2後		1							兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後		2							兼1
	公衆衛生学	2前		1							兼1
保健行政論	2前		1							兼1	
法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1	
生物学	1前		2							兼1	
物理学	1前		2							兼2	
生化学	1後		1							兼2	
環境論	1前		1							兼1	
放射線概論	1後		1		1					兼1	
哲学	1後		1							兼1	
倫理学	1前		1							兼1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1									兼1
	チーム医療論	4後	1					11	6	5	8	兼25
	英語Ⅰ	1前	1									兼2
	英語Ⅱ	2前	1									兼2
	英語Ⅲ	2後		1								兼1
	中国語	1前		1								兼1
	韓国語	1後		1								兼1
	文学	1前		1								兼1
	教育学	1後	1									兼1
	文化人類学	1前		1								兼1
	国際関係論	1前		1								兼1
	国際保健医療論	1後		1								兼1
	音楽論	1後		1								兼1
	栄養学	1前		2								兼1
	薬理学	1後		2								兼1
	社会福祉論	2後		1								兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1								兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1								兼1
	情報リテラシー	1前		1								兼1
	研究法入門	1後		2								兼1
	公衆衛生学	2前		1								兼1
保健行政論	2前		1								兼1	
法学(含日本国憲法)	1前		2								兼1	
生物学	1前		2								兼1	
物理学	1前		2								兼2	
生化学	1後		1								兼1	
環境論	1前		1								兼1	
放射線概論	1後		1				1				兼1	
哲学	1後		1								兼1	
倫理学	1前		1								兼1	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	社会学	1後	2								兼1
	心理学	1前	2								兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
専門基礎科目	人体の構造・機能Ⅰ	1前	2								兼1
	人体の構造・機能Ⅱ	1後	2			1					兼1
	病態学Ⅰ(診断と治療)	2前	2			1					兼5
	<small>病態学Ⅱ(診断と外科的治療、急性と慢性)</small>	2前	2								兼3
	病態学Ⅲ(診断と治療)	2後	1			1					兼5
	微生物学	1前	2								兼3
	病理学	1後	2								兼1
	現代医療論	2前	1			1					
	精神保健論	2後	1				1				
	臨床心理学	2後	1								兼1
	看護関係法規	2前	1			3	1				
	リハビリテーション概論	2後		1							兼1
	臨床栄養学	2後		1							兼1
	疫学	2前	2								兼1
保健統計学	2後	2								兼1	
保健医療情報処理論	2前		1							兼1	
専門科目Ⅰ	看護学概論	1前	2			1					
	看護倫理	2前	1			1					
	看護援助論Ⅰ(看護技術概論)	1前	1				1				
	看護援助論Ⅱ(生活援助技術)	1前	2			2	1	1			
	看護援助論Ⅲ(診療に伴う援助技術)	1後	2			2	1	1			
	看護援助論Ⅳ(健康診査)	2前	1			1	1	1			
	看護援助論Ⅴ(看護過程)	1後	1			1	1	1			
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			2	1	1		2	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			2	1	1		2	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	社会学	1後	2									兼1
	心理学	1前	2									兼1
	発達心理学	1後		1								兼1
	ボランティア学	1後		1								兼1
	生命倫理学	1後		1								兼1
専門基礎科目	人体の構造・機能Ⅰ	1前	2									兼1
	人体の構造・機能Ⅱ	1後	2									兼1
	病態学Ⅰ(診断と治療)	2前	2					2				兼5
	<small>病態学Ⅱ(診断と外科的治療、急性と慢性)</small>	2前	2					1				兼6
	病態学Ⅲ(診断と治療)	2後	1					2				兼4
	微生物学	1前	2									兼1
	病理学	1後	2									兼1
	現代医療論	2前	1			1						
	精神保健論	2後	1					1	1			
	臨床心理学	2後	1									兼1
	看護関係法規	2前	1									兼1
	リハビリテーション概論	2後		1								兼1
	臨床栄養学	2後		1								兼1
	疫学	2前	2									兼1
保健統計学	2後	2									兼1	
保健医療情報処理論	2前		1								兼1	
専門科目Ⅰ	看護学概論	1前	2			1						
	看護倫理	2前	1			1						
	看護援助論Ⅰ(看護技術概論)	1前	1					1				
	看護援助論Ⅱ(生活援助技術)	1前	2					1	1	2	2	
	看護援助論Ⅲ(診療に伴う援助技術)	1後	2					1	1	2	2	
	看護援助論Ⅳ(健康診査)	2前	1					1	1	2	2	
	看護援助論Ⅴ(看護過程)	1後	1					1	1	2	2	
	ヘルスアセスメント	1後	1					1	1	2	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					1	1	2	2	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					1	1	2	2	

【平成27年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	社会学	1後		2							兼1
	心理学	1前	2								兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
専門基礎科目	人体の構造・機能Ⅰ	1前	2								兼1
	人体の構造・機能Ⅱ	1後	2			0					兼1
	病態学Ⅰ(診断と治療)	2前	2			0					兼5
	<small>病態学Ⅱ(診断と外科的治療、各疾患と薬理学)</small>	2前	2								兼3
	病態学Ⅲ(診断と治療)	2後	1			0					兼5
	微生物学	1前	2								兼3
	病理学	1後	2								兼1
	現代医療論	2前	1			0					
	精神保健論	2後	1				1				
	臨床心理学	2後	1								兼1
	看護関係法規	2前	1			3	1				
	リハビリテーション概論	2後		1							兼1
	臨床栄養学	2後		1							兼1
	疫学	2前	2								兼1
保健統計学	2後	2								兼1	
保健医療情報処理論	2前		1							兼1	
専門科目Ⅰ	看護学概論	1前	2			1					
	看護倫理	2前	1			1					
	看護援助論Ⅰ(看護技術概論)	1前	1				1				
	看護援助論Ⅱ(生活援助技術)	1前	2			2	1	1			
	看護援助論Ⅲ(診療に伴う援助技術)	1後	2			2	1	1			
	看護援助論Ⅳ(健康診査)	2前	1			1	1	1			
	看護援助論Ⅴ(看護過程)	1後	1			1	1	1			
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			2	1	1		2	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			2	1	1		2	

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	社会学	1後		2							兼1
	心理学	1前	2								兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
専門基礎科目	人体の構造・機能Ⅰ	1前	2								兼1
	人体の構造・機能Ⅱ	1後	2				0				兼1
	病態学Ⅰ(診断と治療)	2前	2				1				兼6
	<small>病態学Ⅱ(診断と外科的治療、各疾患と薬理学)</small>	2前	2								兼3
	病態学Ⅲ(診断と治療)	2後	1				1				兼5
	微生物学	1前	2								兼1
	病理学	1後	2								兼1
	現代医療論	2前	1				0				
	精神保健論	2後	1					1			
	臨床心理学	2後	1								兼1
	看護関係法規	2前	1				3	1			
	リハビリテーション概論	2後		1							兼1
	臨床栄養学	2後		1							兼1
	疫学	2前	2								兼1
保健統計学	2後	2								兼1	
保健医療情報処理論	2前		1							兼1	
専門科目Ⅰ	看護学概論	1前	2			1					
	看護倫理	2前	1			1					
	看護援助論Ⅰ(看護技術概論)	1前	1				1				
	看護援助論Ⅱ(生活援助技術)	1前	2			2	1	1			
	看護援助論Ⅲ(診療に伴う援助技術)	1後	2			2	1	1			
	看護援助論Ⅳ(健康診査)	2前	1			1	1	1			
	看護援助論Ⅴ(看護過程)	1後	1			1	1	1			
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			2	1	1		1	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			2	1	1		1	

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	社会学	1後		2								兼1
	心理学	1前	2									兼1
	発達心理学	1後		1								兼1
	ボランティア学	1後		1								兼1
	生命倫理学	1後		1								兼1
専門基礎科目	人体の構造・機能Ⅰ	1前	2									兼1
	人体の構造・機能Ⅱ	1後	2			0						兼1
	病態学Ⅰ(診断と治療)	2前	2			2						兼6
	<small>病態学Ⅱ(呼吸と外科的治療、感染症と治療)</small>	2前	2									兼5
	病態学Ⅲ(診断と治療)	2後	1			1						兼5
	微生物学	1前	2									兼1
	病理学	1後	2									兼1
	現代医療論	2前	1			1						
	精神保健論	2後	1				1					
	臨床心理学	2後	1									兼1
	看護関係法規	2前	1			2	1					
	リハビリテーション概論	2後		1								兼1
	臨床栄養学	2後		1								兼1
	疫学	2前	2									兼1
保健統計学	2後	2									兼1	
保健医療情報処理論	2前		1								兼1	
専門科目Ⅰ	看護学概論	1前	2			1						
	看護倫理	2前	1			1						
	看護援助論Ⅰ(看護技術概論)	1前	1				1					
	看護援助論Ⅱ(生活援助技術)	1前	2			2	2	0	1			
	看護援助論Ⅲ(診療に伴う援助技術)	1後	2			2	2	0	1			
	看護援助論Ⅳ(健康診査)	2前	1			1	2	0	1			
	看護援助論Ⅴ(看護過程)	1後	1			1	2	0	1			
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			2	2	0	1	0		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			2	2	0	1	0		

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合教育科目	社会学	1後		2									兼1
	心理学	1前	2										兼1
	発達心理学	1後		1									兼1
	ボランティア学	1後		1									兼1
	生命倫理学	1後		1									兼1
専門基礎科目	人体の構造・機能Ⅰ	1前	2										兼1
	人体の構造・機能Ⅱ	1後	2										兼1
	病態学Ⅰ(診断と治療)	2前	2					2					兼5
	<small>病態学Ⅱ(呼吸と外科的治療、感染症と治療)</small>	2前	2										兼6
	病態学Ⅲ(診断と治療)	2後	1				1						兼5
	微生物学	1前	2										兼1
	病理学	1後	2										兼1
	現代医療論	2前	1				1						
	精神保健論	2後	1						1				
	臨床心理学	2後	1										兼1
	看護関係法規	2前	1						2	1			
	リハビリテーション概論	2後		1									兼1
	臨床栄養学	2後		1									兼1
	疫学	2前	2										兼1
保健統計学	2後	2										兼1	
保健医療情報処理論	2前		1									兼1	
専門科目Ⅰ	看護学概論	1前	2				1						
	看護倫理	2前	1				1						
	看護援助論Ⅰ(看護技術概論)	1前	1					1					
	看護援助論Ⅱ(生活援助技術)	1前	2				2	1	1	2			
	看護援助論Ⅲ(診療に伴う援助技術)	1後	2				2	1	1	2			
	看護援助論Ⅳ(健康診査)	2前	1				1	1	1	2			
	看護援助論Ⅴ(看護過程)	1後	1				1	1	1	2			
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1				2	1	1	2			
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2				2	1	1	2			

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目Ⅱ	成人看護学概論	2前	1			1						兼1
	成人看護方法論Ⅰ(青年期前ケア・クリティカルケア)	2前	2				1					
	成人看護方法論Ⅱ(慢性期・ターミナル期)	2前	2			1						兼1
	成人看護方法論Ⅲ(生活調整・生活再構築)	2後	1			1		1				
	がん看護論	4前		1		1						兼1
	成人看護学実習Ⅰ(急性期)	3後	3				1		1	2		
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後	3				1		1			兼1
	老年看護学概論	2前	1			1						
	老年看護方法論Ⅰ(生活支援技術)	2後	2			1				2		兼1
	老年看護方法論Ⅱ(療養生活支援技術)	3前	1			1			1			
	認知症看護論	4前		1		1						兼1
	老年看護学実習Ⅰ	3後	1			1			2			
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3			1			2			兼1
	小児看護学概論	2前	1			1						
	小児看護方法論Ⅰ(対象理解の方法)	2前	1			1						兼1
	小児看護方法論Ⅱ(看護展開の方法)	3前	2				1					
	小児看護方法論Ⅲ(子どもと遊び)	4前		1		1						兼1
	小児看護学実習	3後	2			1	1	1				
	母性看護学概論	2前	1			1						兼1
	母性看護方法論Ⅰ	2後	1			1						
母性看護方法論Ⅱ	3前	2			1			1			兼1	
母性看護方法論Ⅲ(女性論)	4前		1					1				
母性看護学実習	3後	2			2			1			兼1	
精神看護学概論	2前	1				1						
精神看護方法論Ⅰ(主要症状への支援技術)	3前	1				1					兼1	
精神看護方法論Ⅱ(社会生活適応への支援)	3前	1				1						
精神看護学実習	3後	2				2			1		兼1	
在宅看護学概論	2後	1			1							
在宅看護方法論Ⅰ	3前	1			1				1		兼1	
在宅看護方法論Ⅱ	4前	1			1				1			

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目Ⅱ	成人看護学概論	2前	1			1						兼1
	成人看護方法論Ⅰ(青年期前ケア・クリティカルケア)	2前	2				2	0				
	成人看護方法論Ⅱ(慢性期・ターミナル期)	2後	2			1			2	2		兼1
	成人看護方法論Ⅲ(生活調整・生活再構築)	2後	1			1			2	2		
	がん看護論	4前		1		0				1		兼1
	成人看護学実習Ⅰ(急性期)	3後	3			1	0	2	2	2		
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後	3			1			2	2		兼1
	老年看護学概論	2前	1			1						
	老年看護方法論Ⅰ(生活支援技術)	2後	2			1				0		兼1
	老年看護方法論Ⅱ(療養生活支援技術)	3前	1			1				0		
	認知症看護論	4前		1		1						兼1
	老年看護学実習Ⅰ	3後	1			1				0		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3			1				0		兼1
	小児看護学概論	2前	1			0						
	小児看護方法論Ⅰ(対象理解の方法)	2後	1			0						兼1
	小児看護方法論Ⅱ(看護展開の方法)	3前	2				0					
	小児看護方法論Ⅲ(子どもと遊び)	4前		1		0						兼1
	小児看護学実習	3後	2			0	0			0		
	母性看護学概論	2前	1			0						兼1
	母性看護方法論Ⅰ	2後	1			0	1					
母性看護方法論Ⅱ	3前	2			0	1	1	0			兼1	
母性看護方法論Ⅲ(女性論)	4前		1		1							
母性看護学実習	3後	2			0	1	1				兼1	
精神看護学概論	2後	1			1	1			2			
精神看護方法論Ⅰ(主要症状への支援技術)	3前	1			1				1	2	兼1	
精神看護方法論Ⅱ(社会生活適応への支援)	3前	1			1				1	2		
精神看護学実習	3後	2			1	1			2		兼1	
在宅看護学概論	2後	1			1			1	1			
在宅看護方法論Ⅰ	3前	1			1				1	1	兼1	
在宅看護方法論Ⅱ	4前	1			1				1	1		

【平成27年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目Ⅱ	成人看護学概論	2前	1			1						兼1
	成人看護方法論Ⅰ(障害前期ケア/クリティカルケア)	2前	2				1					
	成人看護方法論Ⅱ(慢性期・ターミナル期)	2前	2			1						兼1
	成人看護方法論Ⅲ(生活調整・生活再構築)	2後	1			1		1				
	がん看護論	4前		1								兼1
	成人看護学実習Ⅰ(急性期)	3後	3				1		1	2		
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後	3				1		1			兼1
	老年看護学概論	2前	1			1						
	老年看護方法論Ⅰ(生活支援技術)	2後	2			1				2		兼1
	老年看護方法論Ⅱ(療養生活支援技術)	3前	1						1			
	認知症看護論	4前		1		1						兼1
	老年看護学実習Ⅰ	3後	1			1			2			
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3			1			2			兼1
	小児看護学概論	2前	1			0						
	小児看護方法論Ⅰ(対象選別の方法)	2前	1			0						兼1
	小児看護方法論Ⅱ(看護展開の方法)	3前	2			1						
	小児看護方法論Ⅲ(子どもと遊び)	4前		1		0						兼1
	小児看護学実習	3後	2			0	1	1				
	母性看護学概論	2前	1			1						兼1
	母性看護方法論Ⅰ	2後	1			1						
母性看護方法論Ⅱ	3前	2			1			0			兼1	
母性看護方法論Ⅲ(女性論)	4前		1					0				
母性看護学実習	3後	2			2			0			兼1	
精神看護学概論	2前	1				1						
精神看護方法論Ⅰ(主要症状への支援技術)	3前	1				1					兼1	
精神看護方法論Ⅱ(社会生活適応への支援)	3前	1				1						
精神看護学実習	3後	2				2			1		兼1	
在宅看護学概論	2後	1			1							
在宅看護方法論Ⅰ	3前	1			1				1		兼1	
在宅看護方法論Ⅱ	4前	1				0			1			

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目Ⅱ	成人看護学概論	2前	1			1						兼0
	成人看護方法論Ⅰ(障害前期ケア/クリティカルケア)	2前	2				1					
	成人看護方法論Ⅱ(慢性期・ターミナル期)	2後	2			1						兼1
	成人看護方法論Ⅲ(生活調整・生活再構築)	2後	1			1			1			
	がん看護論	4前		1								兼1
	成人看護学実習Ⅰ(急性期)	3後	3				1		1	1		
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後	3				1		1			兼1
	老年看護学概論	2前	1			1						
	老年看護方法論Ⅰ(生活支援技術)	2後	2			1				2		兼1
	老年看護方法論Ⅱ(療養生活支援技術)	3前	1						1			
	認知症看護論	4前		1		1						兼1
	老年看護学実習Ⅰ	3後	1			1			2			
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3			1			2			兼1
	小児看護学概論	2前	1			1						
	小児看護方法論Ⅰ(対象選別の方法)	2前	1			1						兼1
	小児看護方法論Ⅱ(看護展開の方法)	3前	2			1			1			
	小児看護方法論Ⅲ(子どもと遊び)	4前		1		1						兼1
	小児看護学実習	3後	2			0	1	1				
	母性看護学概論	2前	1			1						兼1
	母性看護方法論Ⅰ	2後	1			1						
母性看護方法論Ⅱ	3前	2			1			0			兼1	
母性看護方法論Ⅲ(女性論)	4前		1					0				
母性看護学実習	3後	2			2			0			兼1	
精神看護学概論	2後	1				1						
精神看護方法論Ⅰ(主要症状への支援技術)	3前	1				1					兼1	
精神看護方法論Ⅱ(社会生活適応への支援)	3前	1				1						
精神看護学実習	3後	2				2			1		兼1	
在宅看護学概論	2後	1			1							
在宅看護方法論Ⅰ	3前	1			1				1		兼1	
在宅看護方法論Ⅱ	4前	1				0			1			

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目Ⅱ	成人看護学概論	2前	1			1						兼0
	成人看護方法Ⅰ(理学前期ケア/リハビリテーション)	2前	2			1	1					
	成人看護方法Ⅱ(慢性期・ターミナル期)	2後	2			1						兼1
	成人看護方法Ⅲ(急性期・全期再発期)	2後	1			1	0					
	がん看護論	4前		1		1						兼1
	成人看護学実習Ⅰ(急性期)	3後	3			1		1	0			
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後	3			1	0					兼0
	老年看護学概論	2前	1			1						
	老年看護方法Ⅰ(生活支援技術)	2後	2			1			1			兼0
	老年看護方法Ⅱ(介護生活支援技術)	3前	1			1		1				
	認知症看護論	4前		1		1						兼1
	老年看護学実習Ⅰ	3後	1			1		1				
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1				兼1
	小児看護学概論	2前	1			1						
	小児看護方法Ⅰ(対象理解の方法)	2後	1			1						兼1
	小児看護方法Ⅱ(看護展開の方法)	3前	2			1						
	小児看護方法Ⅲ(子どもと遊び)	4前		1		1						兼1
	小児看護学実習	3後	2			1	1	0	1			
	母性看護学概論	2前	1			1						兼1
	母性看護方法Ⅰ	2後	1			0						
母性看護方法Ⅱ	3前	2			0	1	0				兼1	
母性看護方法Ⅲ(女性論)	4前		1		1	0						
母性看護学実習	3後	2			1	1	0				兼1	
精神看護学概論	2後2期	1			1							
精神看護方法Ⅰ(主要症状への支援技術)	3前	1			0			2			兼1	
精神看護方法Ⅱ(社会生活適応への支援)	3前	1			1							
精神看護学実習	3後	2			1			2				
統合科目	在宅看護学概論	2後	1			1						
	在宅看護方法Ⅰ	3前	1			1			1			
	在宅看護方法Ⅱ	4前	1				0		1			

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目Ⅱ	成人看護学概論	2前	1			0						兼1
	成人看護方法Ⅰ(理学前期ケア/リハビリテーション)	2前	2			1	1					
	成人看護方法Ⅱ(慢性期・ターミナル期)	2後	2						1	1		兼1
	成人看護方法Ⅲ(急性期・全期再発期)	2後	1					0		1		
	がん看護論	4前		1		0						兼1
	成人看護学実習Ⅰ(急性期)	3後	3				1			1		
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後	3							2		兼1
	老年看護学概論	2前	1			1						
	老年看護方法Ⅰ(生活支援技術)	2後	2			1	1			1		兼1
	老年看護方法Ⅱ(介護生活支援技術)	3前	1			1	1			1		
	認知症看護論	4前		1		1						兼1
	老年看護学実習Ⅰ	3後	1			1	1			1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1			1		兼1
	小児看護学概論	2前	1			1						
	小児看護方法Ⅰ(対象理解の方法)	2後	1			1						兼1
	小児看護方法Ⅱ(看護展開の方法)	3前	2			1		1				
	小児看護方法Ⅲ(子どもと遊び)	4前		1		1						兼1
	小児看護学実習	3後	2			1	1			1		
	母性看護学概論	2前	1			1						兼1
	母性看護方法Ⅰ	2後	1					1		1		
母性看護方法Ⅱ	3前	2			1	1			1		兼1	
母性看護方法Ⅲ(女性論)	4前		1		1							
母性看護学実習	3後	2			1	1			1		兼1	
精神看護学概論	2後	1			1							
精神看護方法Ⅰ(主要症状への支援技術)	3前	1								2	兼1	
精神看護方法Ⅱ(社会生活適応への支援)	3前	1					1					
精神看護学実習	3後	2					1			2		
統合科目	在宅看護学概論	2後	1			1						
	在宅看護方法Ⅰ	3前	1			1				1		
	在宅看護方法Ⅱ	4前	1			1				1		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
統合科目	在宅看護方法論Ⅲ (在宅医療機器論)	4前		1					1			兼1
	家族看護学	3前	1			1			1			
	在宅看護学実習	4前	2			1	1		1			
	看護管理学	3前	1			1						
	感染看護学	4前		1				1				
	異文化看護論	4前		1				1				
	国際医療と看護	2前	1						1			
	災害看護	2前	1									
	危機管理	3前	1				1					
	看護研究	4後	1			9	2					
	看護カウンセリング	2前		1			1					
	キャリア形成論	4前		1				1				
インターンシップ	4前		1		7	1						
統合実習	4前	2			4	6	4	5	2			
公衆衛生科目	公衆衛生看護学概論	3前	2			1						兼1
	公衆衛生看護方法論Ⅰ ※	3前		2		1						
	公衆衛生看護方法論Ⅱ ※	3前		2					1			
	公衆衛生看護活動論 ※	3前		2		1						
	産業保健・学校保健論 ※	3前		2			1					
	健康危機管理論	3前	2				1					
	公衆衛生看護管理論 ※	3前		2			1					
	保健医療福祉行政論 ※	3前		2		1						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ※	4後		4		1	1		1			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ※	4後		1		1	1		1			

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
統合科目	在宅看護方法論Ⅲ (在宅医療機器論)	4前		1					1			兼1 兼1 兼2 兼1
	家族看護学	3前	1			1						
	在宅看護学実習	4前	2			1	0	1	1			
	看護管理学	3前	1			1						
	感染看護学	4前		1				1	0			
	異文化看護論	4前		1				1	0			
	国際医療と看護	2前	1									
	災害看護	2前	1									
	危機管理	3前	1				0					
	看護研究	4後	1			5	0					
	看護カウンセリング	2前		1			1	1	2			
	キャリア形成論	4前		1				1	0			
インターンシップ	4前		1				1	0				
統合実習	4前	2			4	5	8	9				
公衆衛生科目	公衆衛生看護学概論	3前	2			0	1					兼1
	公衆衛生看護方法論Ⅰ ※	4前		2		0	1					
	公衆衛生看護方法論Ⅱ ※	4前		2					1	0		
	公衆衛生看護活動論 ※	3前		2		0	1	1				
	産業保健・学校保健論 ※	3前		2			1			1		
	健康危機管理論	3前	2				1			1		
	公衆衛生看護管理論 ※	3前		2			1					
	保健医療福祉行政論 ※	3前		2			0					
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ※	4前		4		0	1	1	1			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ※	4後		1		0	1	1	1			

【平成27年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
統合科目	在宅看護方法論Ⅲ (在宅医療機器論)	4前		1					1			兼1
	家族看護学	3前	1			1						
	在宅看護学実習	4前	2			1	0		1			
	看護管理学	3前	1			1						
	感染看護学	4前		1				1				
	異文化看護論	4前		1				1				
	国際医療と看護	2前	1						1			
	災害看護	2前	1									
	危機管理	3前	1				1					
	看護研究	4後	1			8	2					
	看護カウンセリング	2前		1			1					
	キャリア形成論	4前		1				1				
インターンシップ	4前		1		6	1						
統合実習	4前	2			4	5	3	5	2			
公衆衛生科目	公衆衛生看護学概論	3前	2			1						兼1
	公衆衛生看護方法論Ⅰ ※	3前		2		1						
	公衆衛生看護方法論Ⅱ ※	3前		2					1			
	公衆衛生看護活動論 ※	3前		2		1						
	産業保健・学校保健論 ※	3前		2			1					
	健康危機管理論	3前	2				1					
	公衆衛生看護管理論 ※	3前		2			1					
	保健医療福祉行政論 ※	3前		2		1						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ※	4後		4		1	1		1			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ※	4後		1		1	1		1			

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
統合科目	在宅看護方法論Ⅲ (在宅医療機器論)	4前		1					1			兼2
	家族看護学	3前	1			1						
	在宅看護学実習	4前	2			1	0		1			
	看護管理学	3前	1			1						
	感染看護学	4前		1				1				
	異文化看護論	4前		1				1				
	国際医療と看護	2前	1						1			
	災害看護	2前	1									
	危機管理	3前	1				1					
	看護研究	4後	1			8	2					
	看護カウンセリング	2前		1			1					
	キャリア形成論	4前		1				1				
インターンシップ	4前		1		6	1						
統合実習	4前	2			4	5	3	5	1			
公衆衛生科目	公衆衛生看護学概論	3前	2			1						兼1
	公衆衛生看護方法論Ⅰ ※	3前		2		1						
	公衆衛生看護方法論Ⅱ ※	3前		2					1			
	公衆衛生看護活動論 ※	3前		2		1						
	産業保健・学校保健論 ※	3前		2			1					
	健康危機管理論	3前	2				1					
	公衆衛生看護管理論 ※	3前		2			1					
	保健医療福祉行政論 ※	3前		2		1						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ※	4後		4		1	1		1			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ※	4後		1		1	1		1			

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
統合科目	在宅看護方法論Ⅲ(在宅医療機器論)	4前		1					1				兼2
	家族看護学	3前	1			1							
	在宅看護学実習	4前	2			1	0		1				
	看護管理学	3前	1			1							
	感染看護学	4前		1				0					
	異文化看護論	4前		1				0					
	国際医療と看護	2前	1						1				
	災害看護	2前	1										
	危機管理	3前	1				1						
	看護研究	4後	1			8	2						
	看護カウンセリング	2前		1			1						
	キャリア形成論	4前		1					0				
	インターンシップ	4前		1		6	2						
統合実習	4前	2			3	6	2	7	0				
公衆衛生科目	公衆衛生看護学概論	3前	2			1						兼1	
	公衆衛生看護方法論Ⅰ ※	3前		2		1							
	公衆衛生看護方法論Ⅱ ※	3前		2				1	0				
	公衆衛生看護活動論 ※	3前		2		1							
	産業保健・学校保健論 ※	3前		2			1						
	健康危機管理論	3前	2				1						
	公衆衛生看護管理論 ※	3前		2			1						
	保健医療福祉行政論 ※	3前		2			1						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ※	4後		4			1	1	1	0			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ※	4後		1			1	1	1	0			

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
統合科目	在宅看護方法論Ⅲ(在宅医療機器論)	4前		1									兼2
	家族看護学	3前	1			1							
	在宅看護学実習	4前	2			1	0	1	1				
	看護管理学	3前	1			1							
	感染看護学	4前		1					0				
	異文化看護論	4前		1					0				
	国際医療と看護	2前	1							1			
	災害看護	2前	1										
	危機管理	3前	1				1						
	看護研究	4後	1			7	2						
	看護カウンセリング	2前		1			1						
	キャリア形成論	4前		1					0				
	インターンシップ	4前		1		5	1						
統合実習	4前	2			2	6	4	9	0				
公衆衛生科目	公衆衛生看護学概論	3前	2			1						兼1	
	公衆衛生看護方法論Ⅰ ※	3前		2		1							
	公衆衛生看護方法論Ⅱ ※	3前		2				1	0				
	公衆衛生看護活動論 ※	3前		2		1							
	産業保健・学校保健論 ※	3前		2			1						
	健康危機管理論	3前	2				1						
	公衆衛生看護管理論 ※	3前		2			1						
	保健医療福祉行政論 ※	3前		2			1						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ※	4前		4			1	1	1	0			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ※	4後		1			1	1	1	0			

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成27年度】

- ・ 専任の辞退により、「チーム医療論」の専任教員等配置が「教授10」から「教授8」に、「准教授6」から「准教授5」に、「講師3」から「講師2」に変更。
- ・ 講義を充実する理由により、「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」の兼任教員の配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・ 兼任の辞退により、「英語Ⅲ」の兼任配置を「兼任1」から「兼任0」に変更。
- ・ 専任補充により、「放射線概論」の専任教員等配置を「教授0」から「教授1」に、「兼任2」を「兼任1」へ変更。
- ・ 専任教員の退職により、「人体の構造・機能Ⅱ」、「病態学Ⅰ(診断と治療)」、「病態学Ⅲ(診断と治療)」、「現代医療論」がそれぞれ「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 専任教員の辞退により、「小児看護学概論」、「小児看護方法論Ⅰ(対象理解の方法)」、「小児看護方法論Ⅲ(子どもと遊び)」、「小児看護学実習」、「看護研究」、「インターンシップ」の専任教員等配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 専任教員の辞退により、「母性看護方法論Ⅱ」、「母性看護方法論Ⅲ(女性論)」、「母性看護学実習」の専任教員等配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 専任教員の辞退により、「在宅看護方法論Ⅱ」と「在宅看護学実習」の専任教員等配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 専任教員の退職により、「統合実習」の専任教員配置が「准教授6」から「准教授5」に、「講師4」から「講師3」に変更。

【平成28年度】

- ・ カリキュラム進行状況を鑑み、「成人看護方法論Ⅱ(慢性期・ターミナル期)」、「小児看護方法論Ⅰ(対象理解の方法)」、「精神看護学概論」の配当年次をそれぞれ「2前」から「2後」に変更。
- ・ 専任補充により、「チーム医療論」の専任教員等配置を「教授8」から「教授11」に変更。
- ・ 兼任補充により、「英語Ⅲ」の兼任配置を「兼任0」から「兼任1」に変更。
- ・ AC教員審査の結果により、「放射線概論」の専任教員等配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 専任補充により、「病態学Ⅰ(診断と治療)」と「病態学Ⅲ(診断と治療)」の専任教員等配置を「教授0」から「教授1」に変更。また「病態学Ⅰ(診断と治療)」の兼任配置を「兼任5」から「兼任6」に変更。
- ・ 兼任の辞退により、「微生物学」の兼任配置を「兼任3」から「兼任1」に変更。
- ・ 兼任補充により、「老年看護方法論Ⅰ(生活支援技術)」の兼任教員等配置を「兼任0」から「兼任1」に変更。
- ・ 専任補充により、「成人看護方法論Ⅰ(周手術期ケア・クリティカルケア)」の専任教員等配置を「教授0」から「教授1」に、「兼任1」から「兼任0」に変更。
- ・ 専任教員の退職により、「成人看護学実習Ⅰ」の専任教員配置が「助手2」から「助手1」に変更。
- ・ 専任補充により、「小児看護学概論」、「小児看護方法論Ⅰ(対象理解の方法)」、「小児看護方法論Ⅲ(子どもと遊び)」の専任教員等配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・ 兼任補充により、「小児看護方法論Ⅱ(看護展開の方法)」の兼任配置を「兼任0」から「兼任1」に変更。
- ・ 兼任補充により、「災害看護」の兼任配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・ 専任教員の退職により、「統合実習」の専任教員配置が「助手2」から「助手1」に変更。

【平成29年度】

- ・専任補充と退職により、「チーム医療論」の専任教員等配置を「教授11」から「教授10」に、「准教授6」から「准教授5」に、「助教4」から「助教5」に変更。
- ・講義内容の充実をはかり、「物理学」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「放射線概論」の専任教員兼任教員配置を「兼任2」から「教授1」「兼任1」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「病態学Ⅰ(診断と治療)」の専任教員配置を「教授0」から「教授2」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「病態学Ⅱ(診断と外科的治療、含急救と麻酔学)」の専任教員配置を「兼任3」から「兼任5」に変更
- ・専任補充により、「現代医療論」の専任教員配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・専任教員の退職により「看護関係法規」の専任教員配置が「教授3」から「教授2」に変更
- ・A C教員審査の結果により「看護援助論Ⅱ(生活援助技術)」「看護援助論Ⅲ(診療にともなう援助技術)」「看護援助論Ⅳ(健康診査)」「看護援助論Ⅴ(看護過程)」の専任教員配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・A C教員審査の結果と専任教員退職により「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員配置を「准教授1」から「准教授2」へ、「助手1」から「助手0」へ変更
- ・専任教員の退職により「成人看護方法論Ⅲ(生活調整・生活再構築)」の専任教員配置が「講師1」から「講師0」に変更
- ・専任教員の退職により「成人看護学実習Ⅰ(急性期)」の専任教員配置が「助手1」から「助手0」に変更
- ・専任教員の退職により「成人看護学実習Ⅱ(慢性期)」の専任教員配置が「講師1」から「講師0」に変更
- ・専任教員の退職と兼任教員の辞退により「老年看護方法論Ⅰ(生活支援技術)」の専任教員配置が「助教2」から「助教1」兼任教員配置が「兼任1」から「兼任0」に変更
- ・専任教員の補充により「老年看護方法論Ⅱ(療養生活支援技術)」の専任教員配置が「教授0」から「教授1」へ変更
- ・専任教員の退職により「老年看護学実習Ⅰ」と「老年看護学実習Ⅱ」の専任教員配置が「助教2」から「助教1」へ変更
- ・専任教員の補充とA C教員審査の結果により小児看護学実習の専任教員配置が「教授0」から「教授1」に「講師1」から「講師0」に「助教0」から「助教1」に変更
- ・専任教員の退職と補充により「看護関係法規」「母性看護方法論Ⅰ」の専任配置が「教授1」から「教授0」へ変更
- ・専任教員の退職と補充により「母性看護方法論Ⅱ」の専任配置が「教授1」から「教授0」へ「准教授0」から「准教授1」へ変更
- ・専任教員の補充により「母性看護方法論Ⅲ(女性論)」の専任配置が「准教授0」から「准教授1」へ変更
- ・専任教員の退職と補充により「母性看護学実習」の専任配置が「教授2」から「教授1」へ「准教授0」から「准教授1」へ変更
- ・専任教員の補充と退職のため「精神看護方法論Ⅰ(主要症状への支援技術)」の専任配置が「准教授1」から「准教授0」へ「助教0」から「助教2」へ変更
- ・専任教員の補充と退職のため「精神看護学実習」の専任配置が「准教授2」から「准教授1」へ、「助教0」から「助教2」へ変更
- ・専任教員の辞退により「感染看護学」の専任配置が「講師1」から「講師0」へ変更
- ・専任教員の退職により「異文化看護論」と「キャリア形成論」の専任配置が「講師1」から「講師0」へ変更
- ・専任補充と退職により、「統合実習」の専任教員配置が「教授4」から「教授3」へ、「准教授5」から「准教授6」へ、「講師3」から「講師2」へ、「助教5」から「助教7」へ変更
- ・専任教員の辞退により「インターンシップ」の専任配置が「教授7」から「教授6」、「准教授2」から「准教授1」へ変更

【平成30年度】

- ・先任補充により、「チーム医療論」の専任教員等配置を「教授10」から「教授11」に、「講師2」から「講師5」に、「助教5」から「助教8」に変更。
- ・専任の担当コマ数増により、「病態学Ⅰ(診断と治療)」の兼任教員配置を「兼任6」から「兼任5」へ変更
- ・講義の充実を図り、「病態学Ⅰ(診断と治療)」の兼任教員配置を「兼任5」から「兼任6」へ変更
- ・専任補充と退職により、「看護援助論Ⅱ(生活援助技術)」「看護援助論Ⅲ(診療にともなう援助技術)」「看護援助論Ⅴ(看護過程)」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員配置が「准教授2」から「准教授1」へ、「講師0」から「講師1」へ、「助教1」から「助教2」へ変更
- ・教員の退職により「成人看護学概論」が「教授1」から「教授0」へ変更
- ・専任の退職と補充により「成人看護方法論Ⅱ(慢性期・ターミナル期)」「成人看護方法論Ⅲ(生活調整・生活再構築)」が「教授1」から「教授0」へ、「講師0」から「講師1」へ変更
- ・教員の退職により「がん看護論」が「教授1」から「教授0」へ変更
- ・専任の退職と補充により「成人看護学実習Ⅱ(慢性期)」が「教授1」から「教授0」へ、「講師0」から「講師2」へ変更
- ・専任の補充により「老年看護学実習Ⅰ」と「老年看護学実習Ⅱ」が「准教授0」から「准教授1」へ変更
- ・専任の補充により「母性看護方法論Ⅰ」「准教授0」から「准教授1」へ変更
- ・専任の補充により「母性看護方法論Ⅱ」と「母性看護学実習」が「助教0」から「助教1」へ変更
- ・専任の補充により「在宅看護学実習」が「講師0」から「講師1」へ変更
- ・兼任の補充により「キャリア形成論」が「講師0」から「兼任1」へ変更
- ・専任の退職により「インターンシップ」が「教授6」から「教授5」へ変更
- ・専任補充と退職により、「統合実習」の専任教員配置が「教授3」から「教授2」へ、「講師2」から「講師4」へ、「助教7」から「助教9」へ変更
- ・県の実習配置の割り当ての理由により、「公衆衛生看護学実習Ⅰ」の開講期が「4後」から「4前」へ変更

【令和元年度】

- ・専任補充と退職により、「チーム医療論」の専任教員等配置を「教授11」から「教授8」に、「准教授6」から「准教授5」に、「講師5」から「講師9」に、「助教8」から「助教9」に、「助手0」から「助手1」に、「兼25」から「兼28」に変更
- ・講義の充実を図り、「病態学Ⅱ（診断と外科的治療、急救急と麻酔学）」が「教授0」から「教授1」に変更
- ・講義の充実を図り、「病態学Ⅲ（診断と治療）」が「教授1」から「教授2」に、「兼任5」から「兼任4」に変更
- ・講義の充実を図り、「精神保健論」を「講師0」を「講師1」に変更
- ・専任教員の退職により、「看護関係法規」を「教授2、准教授1」から「教授0、准教授0」に、「兼0」から「兼任1」に変更
- ・カリキュラム変更に伴い、「看護援助論Ⅰ（看護技術概論）」が「看護技術概論」、「看護援助論Ⅱ（生活援助技術）」が「生活行動の援助技術」、「看護援助論Ⅲ（診療に伴う援助技術）」が「診療に伴う援助技術」、「看護援助論Ⅴ（看護過程）」が「ヘルスアセスメント」に科目名変更
- ・カリキュラム変更に伴い、配当年次が「看護援助論Ⅱ（生活援助技術）」の「1前」から「生活行動の援助技術」の「1後」、「看護援助論Ⅲ（診療に伴う援助技術）」の「1後」から「診療に伴う援助技術」の「2前」に変更
- ・カリキュラム変更に伴い「看護援助論Ⅱ（生活援助技術）」の「教授2」「講師1」から「生活行動の援助技術」の「教授1」「講師2」に変更
- ・カリキュラム変更に伴い「看護援助論Ⅲ（診療に伴う援助技術）」の「教授2」「講師1」から「看護援助論Ⅲ（診療に伴う援助技術）」の「教授1」「講師2」に変更
- ・専任の補充により、「看護援助論Ⅳ（健康診査）」が「講師1」から「講師2」に変更
- ・カリキュラム変更に伴い「看護援助論Ⅴ（看護課程）」の「講師1」から「ヘルスアセスメント」の「講師2」に変更
- ・専任の退職と補充により、「基礎看護学実習Ⅱ」が「教授2」から「教授1」、「講師1」から「講師2」に変更
- ・専任の補充により、「成人看護学概論」が「教授0」から「教授1」へ変更
- ・専任の補充により、「成人看護方法論Ⅰ（周手術期ケア・クリティカルケア）」を「教授1」から「教授2」へ変更
- ・専任の退職により、「成人看護方法論Ⅰ（周手術期ケア・クリティカルケア）」を「准教授1」から「准教授0」へ変更
- ・専任の補充により、「成人看護方法論Ⅱ（慢性期・ターミナル期）」が「教授0」から「教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教0」から「助教2」へ変更
- ・専任の補充により、「成人看護方法論Ⅲ（生活調整・生活再構築）」が「教授0」から「教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教0」から「助教2」へ変更
- ・専任の補充により、「がん看護論」が「助教0」から「助教1」へ変更
- ・専任の補充により、「成人看護学実習Ⅰ（急性期）」が「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師2」、「助教1」から「助教2」へ変更
- ・専任の退職により、「准教授1」から「准教授0」へ変更
- ・専任の補充により、「成人看護学実習Ⅱ（慢性期）」の専任教員等配置を「教授0」から「教授1」、「助教0」から「助教2」へ変更
- ・専任の退職により、「老年看護方法論Ⅰ（生活支援技術）」が「准教授1」から「准教授0」、「助教1」から「助教0」へ変更
- ・専任の退職により、「老年看護方法論Ⅱ（療養生活支援技術）」が「准教授1」から「准教授0」、「助教1」から「助教0」へ変更
- ・専任の退職により、「老年看護学実習Ⅰ」が「准教授1」から「准教授0」、「助教1」から「助教0」へ変更
- ・専任の退職により、「老年看護学実習Ⅱ」が「准教授1」から「准教授0」、「助教1」から「助教0」へ変更
- ・専任の退職により、「小児看護学概論」が「教授1」から「教授0」、「兼任0」から「兼任1」へ変更
- ・専任の退職により、「小児看護方法論Ⅰ（対象理解の方法）」が「教授1」から「教授0」、「兼任0」から「兼任2」へ変更
- ・専任の退職により、「小児看護方法論Ⅱ（看護展開の方法）」が「准教授1」から「准教授0」、「兼任1」から「兼任3」へ変更
- ・専任の退職により、「小児看護方法論Ⅲ（子供と遊び）」が「教授1」から「教授0」、「兼任0」から「兼任1」へ変更
- ・専任の退職により、「小児看護学実習」が「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」、「助教1」から「助教0」、「兼任0」から「兼任3」へ変更
- ・専任の退職により、「母性看護学概論」は「教授1」から「教授0」、「兼0」から「兼1」へ変更
- ・専任の退職により、「母性看護方法論Ⅰ」が「助教1」から「助教0」へ変更
- ・専任の退職と補充により、「母性看護学方法論Ⅱ」は「教授1」から「教授0」、「助教1」から「助教0」、「講師0」から「講師1」、「兼0」から「兼2」へ変更
- ・専任の退職と補充により、「母性看護学実習」が「教授1」から「教授0」、「助教1」から「助教0」、「兼0」から「兼2」、「講師0」から「講師1」へ変更
- ・専任の補充により、「精神看護方法論Ⅰ（主要症状への支援技術）」が「准教授0」から「准教授1」、「講師0」から「講師1」に変更
- ・専任の補充により、「精神看護方法論Ⅱ（社会生活適応への支援）」が「講師0」から「講師1」、「助教0」から「助教2」に変更
- ・専任の補充により、「精神看護学実習」が「講師0」から「講師1」に変更
- ・専任の補充により、「在宅看護学概論」が「講師0」から「講師1」、「助教0」から「助教1」に変更
- ・専任の補充により、「在宅看護方法論Ⅰ」が「講師0」から「講師1」に変更
- ・専任の補充により、「在宅看護方法論Ⅱ」が「講師0」から「講師1」に変更
- ・専任の補充により、「感染看護学」が「兼任2」から「教授1」「兼任1」に変更
- ・専任の退職により、「国際医療と看護」が「助教1」から「兼任1」に変更
- ・専任の退職と補充、講義の充実を図り、「危機管理」が「教授0」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授0」に、「兼任0」から「兼任1」へ変更
- ・専任の退職により、「看護研究」が「教授7」から「教授5」、「准教授2」から「准教授0」に変更
- ・専任の補充により、「看護カウンセリング」が「講師0」から「講師1」、「助教0」から「助教2」に変更
- ・専任の補充と兼任の辞退により、「キャリア形成論」が「准教授0」から「准教授1」、「兼任1」から「兼任0」に変更
- ・専任の退職と辞退により、「インターンシップ」が「教授5、准教授1」から「教授1」に変更
- ・統合実習は、取りまとめと補佐の教員のみを科目担当とし、領域ごとに担当する実習担当者の人数を記載しないこととしたため、「教授2、准教授6、講師4、助教9」から「教授1、講師1」に変更
- ・専任の退職と補充により、「公衆衛生看護学概論」が「教授1」から「教授0」に、「准教授0」から「准教授2」に変更
- ・終講から実習までの期間を短くし、配当年次の履修科目数の調整して学生の負担を減らすために、「公衆衛生看護方法論Ⅰ」「公衆衛生看護方法論Ⅱ」の配当年次を「3年前期」から「4年前期」に変更
- ・専任の退職により、「公衆衛生看護方法論Ⅰ」が「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」へ変更
- ・専任の退職と補充により、「公衆衛生看護活動論」が「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師0」から「講師1」へ変更
- ・講義の充実を図り、「作業保健・学校保健論」が「助教0」から「助教1」に変更
- ・専任の退職により、「保健医療福祉行政論」が「教授1」から「教授0」、「兼任0」から「兼任1」に変更
- ・専任の退職と補充により、「公衆衛生看護学実習Ⅰ」が「教授1」から「教授0」、「助教0」から「助教1」に変更
- ・専任の退職と補充により、「公衆衛生看護学実習Ⅱ」が「教授1」から「教授0」、「助教0」から「助教1」に変更

(注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
70 科目	44 科目	0 科目	114 科目	70 科目 [0]	44 科目 [0]	0 科目 [0]	114 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講科目及び廃止科目はありません。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{114} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積： 校舎敷地6,629.408㎡ 運動場用地1,252.57㎡ 移動時間シャトルバス19分 (7.55km) 借用期間： 校舎敷地 平成25年7 月から22年9ヶ月 運動場用地 平成27年 4月から20年 自己所有面積 7921.66 ㎡を追加(30)		
	校 舎 敷 地	6,629.408㎡ 14,551.06㎡	0㎡	0㎡	6,629.408㎡ 14,551.06㎡			
	運 動 場 用 地	1,252.57㎡	0㎡	0㎡	1,252.57㎡			
	小 計	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	合 計	7,881.978㎡ 15,803.63㎡	0㎡	0㎡	7,881.978㎡ 15,803.63㎡			
(2) 校 舎	専 用	14,645.14㎡ 15,671.19㎡	0㎡	0㎡	14,645.14㎡ 15,671.19㎡	①借用面積：699.70㎡ ①借用期間：平成27年 4月から20年 ②借用面積：1,026.05 ㎡ ②借用期間：平成31年 4月から20年(30)		
	(14,645.14㎡) (15,671.19㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(14,645.14㎡) (15,671.19㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 ※講義室4と兼用 講義室3 (27)		
	17 室	11 室	15 室	※ 0 室 (補助職員 人)	0 室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	保健医療学部			49 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学生の教養教育涵養及び 修学環境を改善する ため、図書348冊、学 術雑誌6種、視聴覚資 料6点、機械・器具553 点を前倒して購入(27) 設置計画に伴う購入及び学 生の修学環境の充実を図 るため、図書4,033冊、学 術雑誌61種、視聴覚資料24 点追加 機械・器具1,383点追加 機械・器具及び標本欄につ いては記入漏れのため、追 記(28) 設置計画に伴う購入及び学 生の修学環境の充実を図 るため、図書3,863冊、学 術雑誌36種、視聴覚資料16 点追加した。(29)
	保健医療学部	10,300 [1,100]	120 [20] 126 [22] 187 [31] 192 [31] 195 [31]	6 [6] 6 [1]	268 274 298 314 388	10,350 10,905 10,966 11,040	43 56	
		(4,900 [500]) (5,248 [395]) (9,281 [569]) (13,144 [822]) (14,524 [829]) (15,674 [878])	(120 [20]) (126 [22]) (187 [31]) (223 [31]) (260 [40]) (312 [53])	(6 [6]) (6 [1]) (12 [4])	(268) (274) (298) (314) (388) (524)	(8,642) (9,133) (10,516) (11,040)	(43) (56)	
	計	10,300 [1,100]	120 [20] 126 [22] 187 [31] 192 [31] 195 [31]	6 [6] 6 [1]	268 274 298 314 388	10,350 10,905 10,966 11,040	43 56	
		(4,900 [500]) (5,248 [395]) (9,281 [569]) (13,144 [822]) (14,524 [829]) (15,674 [878])	(120 [20]) (126 [22]) (187 [31]) (223 [31]) (260 [40]) (312 [53])	(6 [6]) (6 [1]) (12 [4])	(268) (274) (298) (314) (388) (524)	(8,642) (9,133) (10,516) (11,040)	(43) (56)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		修学環境を改善するた め、閲覧座席数を12席 追加(27)	
	486.91 ㎡		164 席 176 席		18,900 冊			

(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		637.07 m ²		屋外グラウンド					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。図書及び設備の一部を前倒して購入(27)
		教員 1 人当り 研究費等	300千円	300千円	図書購入費	25,952千円 26,814千円	14,808千円 15,112千円	8,382千円	
		共 同 研 究 費 等	4,200千円	6,000千円	設備購入費	252,575千円 274,217千円	126,034千円 108,276千円	5,000千円	
	学生 1 人当り 納付金 (リベリテーション学科)	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		1,760千円	1,680千円	1,680千円	1,680千円	- 千円	- 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	湘 南 医 療 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
保健医療学部									神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48	
看護学科	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	1.15		平成27年度	同上	
リハビリテー ション学科									同上	
理学療法学専攻	4	40	-	160	学士 (理学療法学)	1.12		平成27年度	同上	
作業療法学専攻	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	1.05		平成27年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の 実施計画	
設置計画履行 状況調査時 (平成31年3月)	入学定員を超過して学生を受入れたことにより、講義室等が学生数の規模に対して手狭になっている懸念があることから、適切な定員管理に努めるとともに、学生の学修環境の改善に努めること。	指摘事項 (改善)	新たに講義室を4室設置し、学生の学修環境の改善に努めている。また、入学定員超過率については、平成30年度(1.06倍)、平成31年度(1.05倍)と適切に定員管理を行っている。今後も引き続き適切な定員管理に努めていく。(元)	履行済
設置計画履行 状況調査時 (平成31年3月)	図書館に設置された文献検索用パソコンが数台に限られており、学修への支障が懸念されることから、台数の増加や、学内無線ネットワークの整備など、学修環境の向上に努めること。	指摘事項 (改善)	図書館における学修環境の整備として、文献検索やグループ学習等に広く活用できるパソコン13台を新たに設置した。(元)	履行済
設置計画履行 状況調査時 (平成31年3月)	学生の就職活動を組織的に支援する体制が整備されていないため、適切な体制の整備に努めること。	指摘事項 (改善)	平成30年11月よりキャリア支援センターを設置し、センター内に求人票を配置し、学生が常時求人情報を有効活用できる環境を整備した。また、担当教員を配置し、学科専攻と連携した相談体制を構築するなど、組織的に就職活動を支援できる体制を整備した。(元)	履行済
設置計画履行 状況調査時 (平成31年3月)	学生からの授業アンケートの結果や教職員・学生からの意見・要望などを大学全体で情報共有できる仕組みが整備されていないため、適切に周知ができるよう努めること。	指摘事項 (改善)	学生からの授業評価アンケートについては、集計結果等を関係委員会等において協議するとともに、学生掲示板に掲示するなど、周知している。(元)	履行済

<p>設置計画履行状況 調査 時 (平成30年2月)</p>	<p>保健医療学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>本学保健医療学部看護学科専任教員33名（平成30年5月1日現在）中、定年規程に定める退職年齢を超えて在籍し、学部完成年度（平成30年度）に任期満了の専任教員は8名であり（前年度は6名）、高年齢教員の比率は、24.24%であった。 (30)</p> <p>平成31年3月に3名の教員が定年退職となり、経験のある若手教員に切り替えた。残り5名の退職年齢を超える専任教員が在籍するが、「教育職員定年規程」に基づく特例措置による1年更新（最長3年間）であり、今後は経験ある若手教員への切り替え予定である。教員組織の編成に関して、特に若手教員の育成は、学内外の講義や講座の担当、社会貢献活動への取り組み状況、及び学会誌・研究論文の掲載などが評価や教員資格審査の対象となるため、若手教員の教育研究活動を積極的に支援するとともに、「教員昇任基準に関する規程」を制定し、積極的に教員の昇任を推進している。（元）</p>	<p>履行済</p>	<p>定年規程に定める退職年齢を超えて在籍する教員8名の内、4名の看護専任教員（教授）は、1名を除き、平成31年3月退職予定である。後任は、看護学科各領域の教員職階及び年齢のバランスを考慮しつつ、本学「教育職員昇任基準に関する規程」、「教育職員採用基準に関する規程」並びに大学設置基準第13条に基づき、平成31年4月1日までに採用補充する予定である。特に若手教員の育成は、学内外の講義や講座の担当、社会貢献活動への取り組み状況、及び学会誌・研究論文の掲載などが評価や教員資格審査の対象となるため、若手教員の教育研究活動を積極的に支援する。また、医系教員（教授）4名については、任期満了後に3名は専任補充し、1名は非常勤講師の職位として科目を担当する予定である。 (30)</p>
--	---	-------------	--	------------	---

<p>設置計画履行状況 調査 (平成29年2月)</p>	<p>保健医療学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>定年規程に定める退職年齢を超えて在籍し、学部完成年度に任期が満了する専任教員は6名である。 内、4名の看護専任教員（教授）は、将来構想の展開を可能とする教員を確保すると同時に、各看護学領域の教員職階のバランスを考慮しつつ、本学の「教育職員昇任基準に関する規程」及び「教育職員採用基準に関する規程」、並びに大学設置基準第13条に基づき平成31年4月に補充する予定である。その際には、現職教員の昇任や本学の理念・目的を達成できる高度な専門性を有し、社会貢献できる教員の採用を積極的に行い、教員組織を発展、育成できる体制を維持できるように努める。 また、2名の医師専任教員は、任期満了後に、1名は専任補充し、1名は非常勤講師等の職位として科目を担当する予定である。(29)</p> <p>平成31年3月に3名の教員が定年退職となり、経験のある若手教員に切り替えた。残り5名の退職年齢を超える専任教員が在籍するが、「教育職員定年規程」に基づく特例措置による1年更新（最長3年間）であり、今後は経験ある若手教員への切り替え予定である。 教員組織の編成に関して、特に若手教員の育成は、学内外の講義や講座の担当、社会貢献活動への取り組み状況、及び学会誌・研究論文の掲載などが評価や教員資格審査の対象となるため、若手教員の教育研究活動を積極的に支援するとともに、「教員昇任基準に関する規程」を制定し、積極的に教員の昇任を推進している。(元)</p>	<p>履行済</p>	<p>保健医療学部看護学科では、開設3年目を迎えて設置計画に基づき運営を行っている。 平成28年度までに博士の学位を取得している教員は8名おり、その他の若手教員についても大学院（博士課程）に進学するなど、着実に適切な教員の年齢構成の改善を進めている。 今後も、本学の教育研究の質の向上を第一に、的確な教育研究能力を有する若手教員の育成を含めて平成31年度までに高年齢教員の後任の補充に取り組む。 (30)</p>
<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>設置申請の履行とともに、入学生に基礎学力調査を行い、学生の能力を把握した教育指導を各教員がチューター・担任等として、きめ細やかな学修指導を行う。また、教育研究水準の一層の向上が、4年生大学にふさわしい教育研究活動に結びついていくため、今後の教育活動等を行っていく。 (27)</p>	<p>履行済</p>	

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>研究推進室及び地域連携推進室について、例えば研究推進室が「授業内容及び授業方法の改善を図るための研究」を目的とするのであれば、推進室における医療従事者の役割や位置付けが不明瞭である。このため、研究推進室及び地域連携推進室については、学則第1条及び第4条の趣旨や目的を確実に達成するよう、特に医療従事者の役割や位置付けを明確にした上で具体的な業務内容を不断に検証し、両推進室の改善を図ること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>学則第1条及び第4条の趣旨や目的を確実に達成するため、授業内容及び授業方法の改善を図るための研究（学則4条）を組織的に行うことを基本とし、大学教員が主導的役割を果たしていく。一方その足らざる所（臨床現場の経験等）を医療従事者が担い非常勤の研究者として参画していただく。教員と研究員の役割や位置付けを明確にした上で、具体的な業務内容を副学長（室長）が中心となって推進すると共に、不断に検証し大学の目的達成に努めていく。(27)</p>	<p>履行済</p>	<p>副学長を中心として研究推進室、地域連携推進室の今後の活動計画を今年夏を目標に策定する。(27)</p> <p>研究推進室及び地域連携推進室の活動趣旨、目的、活動内容を規定化した。なお、昨年度策定した活動計画を踏まえて計画的に実施する(28)</p>
<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>CAP制については、学科開設時から導入せず「今後、履修状況を見ながら検討する。」とのことだが、CAP制を開設時から導入しない積極的な理由が不明瞭である。学生に各科目を一定の質を持って学修させるためにはCAP制の導入が有用であることから、学生の履修状況や成績状況について、開学から完成年度に至るまで継続的な分析を行い、その導入について検討をすること。(看護学科)</p>	<p>留意事項</p>	<p>大学設置基準27条の2の規程の趣旨（授業科目を適切に履修させるため）を踏まえCAP制を導入した（平成27年度学生便覧においてキャップ制（p9）を明示すると共に、実質的な指導を行っている）。(27)</p>	<p>履行済</p>	<p>実質的な指導としては、年間38単位を上限として指導を行っている。また、将来にわたりCAP制が有効に機能するように、平成28年4月の施行に向け学則を変更する。</p> <p>学内で検討した結果、登録上限を通年45単位、半期25単位とすることを授業科目履修規程に追記するとともに、学生便覧にその旨を明記することとした(28)</p>
<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>大学運営の体制について、学長が多くの職を兼務することから学長を補佐する体制を整備するため副学長を置くが、その副学長を学部長が兼務することから、計画どおりの大学運営が着実に実行されるよう、学長、副学長、学部長の役割分担を改めて整理し、学内のガバナンス体制の強化に努めること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>計画通りの大学運営を行うため、副学長と学部長の兼務を専任に切り替え、副学長と学部長の役割分担を見直した。(27)</p>	<p>履行済</p>	<p>実施済み(27)</p> <p>(4月30日学部長辞任により、6月1日を目標に選任する。)</p> <p>平成27年6月1日付けで副学長・保健医療学部長就任</p> <p>副学長2人を配置し、学長を補佐する。内1人は保健医療学部長の業務も担当する。(28)</p> <p>平成30年4月1日付けで副学長・保健医療学部長交代。また同日に学長補佐を配置し、役割分担をより明確にした。(30)</p>

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>正課の授業は体育館を使用する事で支障はない。課外活動等においては、運動場の活用が見込まれている場合は、設置申請書類にあるとおり、「移動にかかる時間の短縮および学生の安全面の確保のため、原則本学から運動場までの移動はシャトルバスを利用する」として配慮する。(27)</p>	<p>履行済</p>	<p>実施済み(27)</p>
<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。(看護学科)</p>	<p>留意事項</p>	<p>設置の趣旨で提出している「湘南医療大学完成年度後教員配置計画」に基づき、高齢者7名は退職する。本学の教員は有期雇用とし、初回は4年間、引き続き採用する場合は2年間として、教員組織の再編ができるような仕組みとしている。(27)</p>	<p>履行済</p>	<p>実施済み(27)</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 施設・設備</p> <p>a 図書館一般閲覧席104席、自習スペース21席、レファレンス3席</p> <p>b 図書4900冊、学術雑誌120種、視聴覚資料268点、機械・器具 8,642点</p> <p>c 全館無線LAN環境整備、学生へPC無償貸与</p>	<p>① 学生の修学環境をより向上するため、図書館の一般閲覧席・自習スペース・レファレンスを一般閲覧席に統合して12席増加し、図書を348冊、学術雑誌を6種、視聴覚資料6点を増書した。</p> <p>LAN環境は図書館及び講義室（情報処理学習施設）においては無線LAN環境を整備済み。その他はセキュリティーを考慮し有線LANを完備した。</p> <p>また、学生へのPC無償貸与はPCやタブレット等をすでに持っている者がほとんどのため、無償貸与を取りやめた。</p> <p>① 設置計画に伴う購入及び学生の修学環境の充実を図るため、図書4,033冊、学術雑誌61種、視聴覚資料24点、機械・器具1,383点追加した。(28)</p> <p>① 設置計画に伴う購入及び学生の修学環境の充実を図るため、図書3,8623冊、学術雑誌536種、視聴覚資料16点追加した。(29)</p> <p>① 平成29年度報告の図書冊数及び学術雑誌数について、記載ミスのため修正した。(30)</p> <p>① 設置計画に伴う購入及び学生の修学環境の充実を図るため、図書1,380冊、学術雑誌37種、視聴覚資料74点追加した。(30)</p> <p>① 理事長室を学長室へ、学長室を事務室へ室名変更した。(30)</p> <p>① 設置計画に伴う購入及び学生の修学環境の充実を図るため、図書1,150冊、学術雑誌52種、視聴覚資料136点、機械・器具524点、標本13点追加した。(元)</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

ファカルティ・ディベロップメント委員会（平成27年4月設置）

【関係規程抜粋】

- ・学則第4条（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

「本学は、授業の内容及び教授方法の改善を図るために組織的な研修及び研究を行う」

- ・ファカルティ・ディベロップメント委員会規程第2条（目的）

「委員会は、本学におけるファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）及びスタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）活動が持続的に実行されるよう、次の事項について審議するとともに、各年度におけるFD（以下「SD」を含む。）活動の推進機能を併せもつものとする。

- (1) FD活動の企画立案
- (2) FD活動の実施計画の立案
- (3) FD活動の評価
- (4) FD活動に関する情報の収集
- (5) その他、委員長の諮問事項

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

FD委員会は学長（委員長）を含め13人の教員と事務部長によって構成され、平成30年度においては6回（4/11、5/23、9/19、11/21、2/20、3/20）開催した。

c 委員会の審議事項等

- ①授業の進め方、理解度、成績評価の方法等に関する状況掌握の方法
- ②効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営に向けた研修制度の検討
- ③新任教員を対象とした研修方法の検討
- ④臨床実習指導法の検討

② 実施状況

a 実施内容

- ①自己点検評価に関するFD研修
- ②学生による授業評価と結果の公表
- ③教員相互の授業参観と評価
- ④臨床実習指導方法に関する講習会
- ⑤他大学の教育方法の研修
- ⑥教育方法改善検討会

b 実施方法

- ①自己点検評価に関するFD研修

平成28年度の自己点検・評価を使用して、自己点検・評価の概要を理解し、業務に携わる教職員も携わらない教職員も本学の良い点・改善点を理解できた。

- ②学生による授業評価アンケート

前期・後期に開講される全ての科目を対象に、原則として授業最終日に授業改善アンケートを実施。集計結果は授業担当教員にフィードバックされるとともに、次年度の授業運営における参考として活用した。また、学生から集計結果の公開について希望があった場合は、事務局にて公開することとした。

- ③教員相互の授業参観

効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営方法等について、前期7科目、後期7科目を対象として授業参観を実施した。実施後、参観した教員にはワークシートを提出してもらい、自分の授業運営への活用案や、今後の授業参観の実施方法に関する改善点等について情報収集を行った。

④臨床実習指導法の研修

「実習指導における課題およびその対応と工夫」をテーマとして、実習施設及び実習関係者を対象に臨地実習の指導方法に関する研修を実施した。

⑤他大学の教育方法の研修

教育方法の質の向上のため、全国に公開されているFD講習会に教職員が参加し、先行する他大学の教育方法の伝達を年に1~2回実施した。

⑥教育方法改善検討会

教育方法について年度末に改善点や、導入意義のありそうな他大の教育内容についてディスカッションした。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

①自己点検評価に関するFD研修

副学長1名、リハビリテーション学科24名、看護学科33名、事務職員13名で研修を行い、自己点検評価について理解を深めた。

②学生による授業改善アンケート

前期授業（67科目）、後期授業（37科目）の最終日、履修者全員にアンケート用紙を配布し、（15分間）で回答・回収した。

③教員相互の授業参観

【第1回】	日時：平成30年 4月 9日（月）	科目名：小児看護方法論Ⅰ（対象理解の方法）	参加教員数：5人
【第2回】	日時：平成30年 4月13日（金）	科目名：看護学概論	参加教員数：4人
【第3回】	日時：平成30年 4月16日（月）	科目名：健康危機管理論	参加教員数：7人
【第4回】	日時：平成30年 4月23日（月）	科目名：国際医療と看護	参加教員数：8人
【第5回】	日時：平成30年 4月27日（金）	科目名：看護援助論Ⅳ（健康診査）	参加教員数：7人
【第6回】	日時：平成30年 5月 1日（火）	科目名：在宅看護方法論Ⅲ（在宅医療機器論）	参加教員数：4人
【第7回】	日時：平成30年 5月 7日（月）	科目名：精神看護方法論Ⅰ（主要症状への支援技術）	参加教員数：8人
【第8回】	日時：平成30年10月 1日（月）	科目名：成人看護方法論Ⅱ（慢性期・ターミナル期）	参加教員数：3人
【第9回】	日時：平成30年10月 5日（金）	科目名：成人看護方法論Ⅱ（慢性期・ターミナル期）	参加教員数：6人
【第10回】	日時：平成30年10月29日（月）	科目名：看護援助論Ⅲ（診療に伴う援助技術）	参加教員数：7人
【第11回】	日時：平成30年11月12日（月）	科目名：看護援助論Ⅲ（診療に伴う援助技術）	参加教員数：6人
【第12回】	日時：平成30年11月14日（水）	科目名：成人看護方法論Ⅱ（慢性期・ターミナル期）	参加教員数：5人
【第13回】	日時：平成30年11月20日（火）	科目名：老年看護方法論Ⅰ（生活支援技術）	参加教員数：5人
【第14回】	日時：平成31年 1月 8日（火）	科目名：看護援助論Ⅲ（診療に伴う援助技術）	参加教員数：6人

④臨床実習指導法の研修

- ・実施日時及び講演テーマ：平成30年8月24日（金）
「臨地実習指導方法に関する研修会」
- ・参加教員数：53人

⑤⑥他大学の教育方法の研修、教育方法改善検討会

作業療法学専攻講師より立命館大学の『学習支援方法の検討～成績不振学生に対して～』を行い、教育方法改善検討会に同発表をもとに、学内の講義や学生指導にどう活かせるかグループワークを実施した。

参加状況：副学長1名、学長補佐1名、リハビリテーション学科19名、看護学科18名、事務職員15名計54名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成30年度について、授業参観実施結果等を教職員全体で情報共有を行い、授業改善につなげている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期・後期に開講される全ての科目を対象に、原則として授業最終日に授業改善アンケートを実施。

集計結果は授業担当教員にフィードバックされるとともに、次年度の授業運営における参考として活用した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

学生から集計結果の公開について希望があった場合は、図書館にて公開することとした。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置

b 委員会の開催

c 委員会の審議

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携
- ・ 産業界との連携

b 教育課程連携

c 教育課程連携

該 当 な し

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

大学開設5年目を迎え、設置の趣旨・目的に沿って教育体制を整備し、予定された授業科目も計画に沿って開設されている。教員配置についても、定年退職等の補充を適切に行っている。

- ・学生の受入れについては、計画的な広報活動のもと、入学定員80人に対し志願者516人であり、また、入学者の選抜についてはアドミッションポリシーにもとづく選考を実施し、84人の新入生を受入れ入学定員超過率は1.05倍（小数点以下第2位迄）となっている。
- ・学修指導については、大学の教育方針を踏まえ、きめ細かな助言・指導を行うため、チューター制（1グループ18人程度の学生に対し専任教員2人）を導入し、個別面談により学修に関する助言・指導を行うとともに、生活面でのフォローにあたっている。
- ・新入生については、入学時のオリエンテーションガイダンスを通じて、看護学科設置の趣旨に関する理解促進を図るとともに、学生便覧、シラバス、及び科目進行表等により、4年間にわたる系統的な学修計画の説明・指導を行った。
- ・2、3、4年生についても、オリエンテーションガイダンスにおいて、将来の進路を踏まえた学修計画について理解促進を図るとともに、専門科目に関する興味の醸成を図った。
- ・単位の過剰登録を防ぐためCAP制を導入し、半期25単位、通年で45単位を上限とすることを授業科目履修規程に追記するとともに、学生便覧に明記し学生に周知した。
- ・実習科目については事前に研修会を実施し、効果的な学習ができるよう教員間で情報共有を図ることで質・量的にばらつきのない平準的な授業運営を担保した。
- ・教員の教育力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント（FD）の取り組みの一環として、FD委員会を設置し、学生による授業評価アンケート、教員相互の授業参観、臨床実習に向けた指導方法に関する講演会、新任教員を対象とした教育方法、学生指導に関する研修等を企画実施した。
- ・授業改善アンケートは、前期・後期の授業最終日に実施し、集計結果は授業担当教員にフィードバックされるとともに、次年度の授業運営における参考として活用されている。また、公開を希望する学生については、事務局にて公開する対応をとっている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成30年度分を令和元年度中に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公表予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和3年度までに評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受ける予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元 年 11 月 1 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注） ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人湘南ふれあい学園

(2) 大学名

湘南医療大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒244-0806
神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オオヤシキ フジエ) 大屋敷 芙志枝 (平成6年4月)		
学長	(オオヤシキ フジエ) 大屋敷 芙志枝 (平成6年4月)		
学部長	(イイノ ヤスヒコ) 飯野 靖彦 (平成27年4月)	(カタヤマ ヨウイチ) (テラモト アキラ) 片山 容一 寺本 明 (平成27年6月) (平成30年4月)	体調不良により平成27年4月30日付で辞職(27) 平成27年6月1日付で就任(28) 体調不良により平成30年3月31日付で辞職(30) 平成30年4月1日付で就任(30)
リハビリテーション 学科長	(ツルミ タカマサ) 鶴見 隆正 (平成27年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
保健医療学部 リハビリテーション学科	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	80人	-	320人	
理学療法専攻 学士(理学療法)	保健衛生学(リハビリテーション関係)	4年	40人	-	160人	
作業療法専攻 学士(作業療法)	保健衛生学(リハビリテーション関係)	4年	40人	-	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

①リハビリテーション学科

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80人 () []		80人 (-) [-]		80人 () []		80人 () []		80人 () []		1.08倍	1.08倍	
志願者数	328 (-) [-]	() []	443 (-) [-]	() []	382 () []	() []	403 () []	() []	353 () []	() []			
受験者数	288 (-) [-]	() []	419 (-) [-]	() []	375 () []	() []	386 () []	() []	342 () []	() []			
合格者数	99 (-) [-]	() []	108 (-) [-]	() []	122 () []	() []	101 () []	() []	116 () []	() []			
B 入学者数	87 (-) [-]	() []	86 (-) [-]	() []	88 () []	() []	86 () []	() []	86 () []	() []			
入学定員超過率 B/A	1.09		1.08		1.10		1.08		1.08				

②リハビリテーション学科理学療法専攻

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40 人 () []		40 人 (-) [-]		40 人 () []		40 人 () []		40 () []		1.12倍	1.12倍	
志願者数	228 (-) [-]	() () []	323 (-) [-]	() () []	304 () []	() () []	266 () []	() () []	269 () []	() () []			
受験者数	200 (-) [-]	() () []	304 (-) [-]	() () []	298 () []	() () []	256 () []	() () []	261 () []	() () []			
合格者数	56 (-) [-]	() () []	47 (-) [-]	() () []	58 () []	() () []	50 () []	() () []	56 () []	() () []			
B 入学者数	46 (-) [-]	() () []	43 (-) [-]	() () []	46 () []	() () []	43 () []	() () []	45 () []	() () []			
入学定員超過率 B/A	1.15		1.08		1.15		1.08		1.13				

③リハビリテーション学科作業療法専攻

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40 人 () []		40 人 (-) [-]		40 人 () []		40 人 () []		40 人 () []		1.05倍	1.05倍	
志願者数	100 (-) [-]	() () []	120 (-) [-]	() () []	78 () []	() () []	137 () []	() () []	84 () []	() () []			
受験者数	88 (-) [-]	() () []	115 (-) [-]	() () []	77 () []	() () []	130 () []	() () []	81 () []	() () []			
合格者数	43 (-) [-]	() () []	61 (-) [-]	() () []	64 () []	() () []	51 () []	() () []	60 () []	() () []			
B 入学者数	41 (-) [-]	() () []	43 (-) [-]	() () []	42 () []	() () []	43 () []	() () []	41 () []	() () []			
入学定員超過率 B/A	1.02		1.07		1.05		1.07		1.03				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、**編入学の状況について外数で記入**してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 転入学生は記入しないでください。
 - ・ []内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、**計算の際は「入学定員超過率」と同様**にしてください。
 - ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、**完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ**記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

①リハビリテーション学科

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	87 [-] (-)	[-] (-)	86 [-] (-)	[-] (-)	88 [-] (-)	[-] (-)	86 [-] (-)	[-] (-)	86 [-] (-)	[-] (-)	
2年次	/		83 [-] (-)	[-] (-)	83 [-] (-)	[-] (-)	86 [-] (-)	[-] (-)	85 [-] (-)	[-] (-)	
3年次			/		80 [-] (-)	[-] (-)	80 [-] (-)	[-] (-)	83 [-] (-)	[-] (-)	
4年次					/		/		78 [-] (-)	[-] (-)	91 [-] (-)
計			87 [-] (-)	169 [-] (-)					251 [-] (-)	330 [-] (-)	345 [-] (13)

②リハビリテーション学科理学療法専攻

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	46 [-] (-)	[-] (-)	43 [-] (-)	[-] (-)	46 [-] (-)	[-] (-)	43 [-] (-)	[-] (-)	45 [-] (-)	[-] (-)	
2年次	/		43 [-] (-)	[-] (-)	42 [-] (-)	[-] (-)	46 [-] (-)	[-] (-)	43 [-] (-)	[-] (-)	
3年次			/		41 [-] (-)	[-] (-)	41 [-] (-)	[-] (-)	44 [-] (-)	[-] (-)	
4年次					/		/		41 [-] (-)	[-] (-)	44 [-] (-)
計			46 [-] (-)	86 [-] (-)					129 [-] (-)	171 [-] (-)	176 [-] (5)

③リハビリテーション学科作業療法学専攻

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	41 [-] (-)	[-] (-)	43 [-] (-)	[-] (-)	42 [-] (-)	[-] (-)	43 [-] (-)	[-] (-)	41 [-] (-)	[-] (-)	
2 年次	/		40 [-] (-)	[-] (-)	41 [-] (-)	[-] (-)	40 [-] (-)	[-] (-)	42 [-] (-)	[-] (-)	
3 年次			/		/		39 [-] (-)	[-] (-)	39 [-] (-)	[-] (-)	39 [-] (-)
4 年次	/						/		/		37 [-] (-)
計			41 [-] (-)	83 [-] (-)	122 [-] (-)	159 [-] (-)					169 [-] (8)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

①リハビリテーション学科

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	87人	4人	平成27年度	4人	0人	・家庭の事情(1名) ・学生個名の心身に関する事情(1名) ・他教育機関への入学・転学(1名) ・留学(1名)
平成28年度	169人	6人	平成27年度	3人	0人	・進路変更(2名) ・就職(1名)
			平成28年度	3人	0人	・学生個名の心身に関する事情(1名) ・就職(2名)
平成29年度	251人	7人	平成27年度	2人	0人	・進路変更(1名) ・就職(1名)
			平成28年度	3人	0人	・進路変更(3名)
			平成29年度	2人	0人	・進路変更(2名)
平成30年度	330人	9人	平成27年度	3人	0人	・進路変更(2名) ・就学意欲低下(1名)
			平成28年度	2人	0人	・経済困窮(1名) ・進路変更(1名)
			平成29年度	3人	0人	・進路変更(1名) ・就職(2名)
			平成30年度	1人	0人	・進路変更(1名)
令和元年度	345人	0人	平成27年度	0人	0人	
			平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		26人		26人	0人	

②リハビリテーション学科理学療法専攻

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	46人	3人	平成27年度	3人	0人	・学生個人の心身に関する事情(1名) ・他教育機関への入学・転学(1名) ・留学(1名)
平成28年度	86人	3人	平成27年度	2人	0人	・進路変更(1名) ・就職(1名)
			平成28年度	1人	0人	・学生個人の心身に関する事情(1名)
平成29年度	129人	1人	平成27年度	0人	0人	
			平成28年度	1人	0人	・進路変更(1名)
			平成29年度	0人	0人	
平成30年度	171人	4人	平成27年度	0人	0人	
			平成28年度	2人	0人	・経済困窮(1名) ・進路変更(1名)
			平成29年度	2人	0人	・進路変更(1名) ・就職(1名)
			平成30年度	0人	0人	
令和元年度	176人	0人	平成27年度	0人	0人	
			平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		11人		11人	0人	

③リハビリテーション学科作業療法学専攻

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	41人	1人	平成27年度	1人	0人	・家庭の事情(1名)
平成28年度	83人	3人	平成27年度	1人	0人	・進路変更(1名)
			平成28年度	2人	0人	・就職(2名)
平成29年度	122人	6人	平成27年度	2人	0人	・進路変更(1名) ・就職(1名)
			平成28年度	2人	0人	・進路変更(2名)
			平成29年度	2人	0人	・進路変更(2名)
平成30年度	159人	5人	平成27年度	3人	0人	・就職(2名) ・就学意欲低下(1名)
			平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	1人	0人	・就職(1名)
			平成30年度	1人	0人	・進路変更(1名)
令和元年度	169人	0人	平成27年度	0人	0人	
			平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		15人		15人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

①リハビリテーション学科

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{87} = \boxed{4.59} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{169} = \boxed{3.55} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{7}{251} = \boxed{2.78} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{9}{330} = \boxed{2.72} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{345} = \boxed{0} \%$$

②リハビリテーション学科理学療法専攻

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{46} = \boxed{6.52} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{86} = \boxed{3.48} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{129} = \boxed{0.77} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{171} = \boxed{2.33} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{176} = \boxed{0} \%$$

③リハビリテーション学科作業療法専攻

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{41} = \boxed{2.43} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{83} = \boxed{3.61} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{122} = \boxed{4.91} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{159} = \boxed{3.14} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{169} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療保健学部 リハビリテーション学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	4後	1			7	5	5	2		兼26
	英語 I	1前	1								兼1
	英語 II	2前	1								兼1
	英語 III	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	文学	1前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	国際関係論	1前		1							兼1
	国際保健医療論	1後		1							兼1
	音楽論	1後		1							兼1
	栄養学	2前		2							兼1
	薬理学	2後		2							兼1
	社会福祉論	2後		1							兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後		2							兼1
	公衆衛生学	2前		1							兼1
	保健行政論	2前		1							兼1
	法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1
生物学	1前		2							兼1	
物理学	1前		2							兼1	
生化学	1後		1							兼2	
環境論	1前		1							兼1	
放射線概論	1後		1							兼2	
哲学	1後		1							兼1	
倫理学	1前		1							兼1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	4後	1			9	4	8	3		兼32
	英語 I	1前	1								兼2
	英語 II	2前	1								兼2
	英語 III	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	文学	1前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	国際関係論	1前		1							兼1
	国際保健医療論	1後		1							兼2
	音楽論	1後		1							兼1
	栄養学	2前		2							兼1
	薬理学	2後		2							兼1
	社会福祉論	2後		1							兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後		2							兼1
	公衆衛生学	2前		1							兼1
	保健行政論	2前		1							兼1
	法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1
生物学	1前		2							兼1	
物理学	1前		2							兼2	
生化学	1後		1							兼1	
環境論	1前		1							兼1	
放射線概論	1後		1							兼2	
哲学	1後		1							兼1	
倫理学	1前		1							兼1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【平成27年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	4後	1			6	6	5	2		兼22
	英語Ⅰ	1前	1								兼2
	英語Ⅱ	2前	1								兼2
	英語Ⅲ	2後		1							兼0
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	文学	1前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	国際関係論	1前		1							兼1
	国際保健医療論	1後		1							兼1
	音楽論	1後		1							兼1
	栄養学	2前	2								兼1
	薬理学	2後	2								兼1
	社会福祉論	2後	1								兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後	2								兼1
	公衆衛生学	2前	1								兼1
	保健行政論	2前	1								兼1
	法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1
生物学	1前		2							兼1	
物理学	1前		2							兼1	
生化学	1後		1							兼2	
環境論	1前		1							兼1	
放射線概論	1後		1							兼2	
哲学	1後		1							兼1	
倫理学	1前		1							兼1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	4後	1			6	5	6	2		兼22
	英語Ⅰ	1前	1								兼2
	英語Ⅱ	2前	1								兼2
	英語Ⅲ	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	文学	1前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	国際関係論	1前		1							兼1
	国際保健医療論	1後		1							兼1
	音楽論	1後		1							兼1
	栄養学	2前	2								兼1
	薬理学	2後	2								兼1
	社会福祉論	2後	1								兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後	2								兼1
	公衆衛生学	2前	1								兼1
	保健行政論	2前	1								兼1
	法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1
生物学	1前		2							兼1	
物理学	1前		2							兼1	
生化学	1後		1							兼2	
環境論	1前		1							兼1	
放射線概論	1後		1							兼2	
哲学	1後		1							兼1	
倫理学	1前		1							兼1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	4後	1			8	5	6	3		兼26
	英語 I	1前	1								兼2
	英語 II	2前	1								兼2
	英語 III	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	文学	1前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	国際関係論	1前		1							兼1
	国際保健医療論	1後		1							兼1
	音楽論	1後		1							兼1
	栄養学	2前		2							兼1
	薬理学	2後		2							兼1
	社会福祉論	2後		1							兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後		2							兼1
	公衆衛生学	2前		1							兼1
	保健行政論	2前		1							兼1
	法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1
生物学	1前		2							兼1	
物理学	1前		2							兼2	
生化学	1後		1							兼2	
環境論	1前		1							兼1	
放射線概論	1後		1		1					兼1	
哲学	1後		1							兼1	
倫理学	1前		1							兼1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	4後	1			8	5	6	3		兼33
	英語 I	1前	1								兼2
	英語 II	2前	1								兼2
	英語 III	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	文学	1前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	国際関係論	1前		1							兼1
	国際保健医療論	1後		1							兼1
	音楽論	1後		1							兼1
	栄養学	2前		2							兼1
	薬理学	2後		2							兼1
	社会福祉論	2後		1							兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1
	情報リテラシー	1前		1							兼1
	研究法入門	1後		2							兼1
	公衆衛生学	2前		1							兼1
	保健行政論	2前		1							兼1
	法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1
生物学	1前		2							兼1	
物理学	1前		2							兼2	
生化学	1後		1							兼1	
環境論	1前		1							兼1	
放射線概論	1後		1							兼2	
哲学	1後		1							兼1	
倫理学	1前		1							兼1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	社会学	1後		2							兼1
	心理学	1前	2								兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	小計(35科目)	—	15	28	0	7	5	5	2	0	兼62
専門基礎科目	解剖学Ⅰ(骨・筋)	1前	1			1					
	解剖学Ⅱ(神経)	1前	1			1					
	解剖学Ⅲ(内臓器)	1後	1			1					
	解剖学実習	2前	2			1					
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	2前	2								兼1
	基礎運動学	1後	1				1				兼1
	運動機能学	2前	1				1	1			
	運動学Ⅰ	1後	1			2					
	運動学Ⅱ	2前	1			1		1			
	運動学演習	2後	1				1	1	1		
	運動学演習(応用)	2後	1			1					
	人間発達学	1後	1								兼1
	運動生理学	1後	1				1				
	臨床心理学	2前	1								兼1
	病理学	2前	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼4
	内科学Ⅱ	2後	1								兼5
	整形外科学Ⅰ	2前	1								兼1
	整形外科学Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1
精神医学Ⅱ	2後	1								兼1	
神経内科学	2後	1								兼1	
小児科学	2前	1								兼1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	社会学	1後		2							兼1
	心理学	1前	2								兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	小計(35科目)	—	15	28	0	9	4	8	3	0	兼71
専門基礎科目	解剖学Ⅰ(骨・筋)	1前	1			1					
	解剖学Ⅱ(神経)	1前	1			1					
	解剖学Ⅲ(内臓器)	1後	1			1					
	解剖学実習	2前	2			1					
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	2前	2								兼2
	基礎運動学	1後	1				1				兼1
	運動機能学	2前	1				1		2		
	運動学Ⅰ	1後	1						1		
	運動学Ⅱ	2前	1				1		1		
	運動学演習	2後	1				1	1	1		
	運動学演習(応用)	2後	1				1				
	人間発達学	1後	1								兼1
	運動生理学	1後	1				1				
	臨床心理学	2前	1								兼1
	病理学	2前	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼1
	内科学Ⅱ	2後	1								兼2
	整形外科学Ⅰ	2前	1								兼1
	整形外科学Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1
精神医学Ⅱ	2後	1								兼1	
神経内科学	2後	1								兼2	
小児科学	2前	1								兼8	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【平成27年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	社会学	1後		2							兼1
	心理学	1前	2								兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	小計(35科目)	—	15	28	0	6	6	5	2	0	兼59
専門基礎科目	解剖学Ⅰ(骨・筋)	1前	1			1					
	解剖学Ⅱ(神経)	1前	1			1					
	解剖学Ⅲ(内臓器)	1後	1			1					
	解剖学実習	2前	2			1					
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	2前	2								兼1
	基礎運動学	1後	1				1				兼1
	運動機能学	2前	1				1	1			
	運動学Ⅰ	1後	1			1	1				
	運動学Ⅱ	2前	1			1		1			
	運動学演習	2後	1				1	1	1		
	運動学演習(応用)	2後	1			1					
	人間発達学	1後	1								兼1
	運動生理学	1後	1				1				
	臨床心理学	2前	1								兼1
	病理学	2前	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼3
	内科学Ⅱ	2後	1								兼4
	整形外科Ⅰ	2前	1								兼1
	整形外科Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1
	精神医学Ⅱ	2後	1								兼1
神経内科学	2後	1								兼1	
小児科学	2前	1								兼1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	社会学	1後		2							兼1
	心理学	1前	2								兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	小計(35科目)	—	15	28	0	6	5	6	2	0	兼60
専門基礎科目	解剖学Ⅰ(骨・筋)	1前	1			1					
	解剖学Ⅱ(神経)	1前	1			1					
	解剖学Ⅲ(内臓器)	1後	1			1					
	解剖学実習	2前	2			1					
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	2前	2								兼1
	基礎運動学	1後	1				1				兼1
	運動機能学	2前	1				1	1			
	運動学Ⅰ	1後	1				1	0	1		
	運動学Ⅱ	2前	1				1		1		
	運動学演習	2後	1				1	1	1		
	運動学演習(応用)	2後	1			1					
	人間発達学	1後	1								兼1
	運動生理学	1後	1				1				
	臨床心理学	2前	1								兼1
	病理学	2前	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼5
	内科学Ⅱ	2後	1								兼8
	整形外科Ⅰ	2前	1								兼1
	整形外科Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1
	精神医学Ⅱ	2後	1								兼1
神経内科学	2後	1								兼2	
小児科学	2前	1								兼5	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	社会学	1後		2							兼1
	心理学	1前	2								兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	小計(35科目)	—	15	28	0	8	5	6	3	0	兼64
専門基礎科目	解剖学Ⅰ(骨・筋)	1前	1			1					
	解剖学Ⅱ(神経)	1前	1			1					
	解剖学Ⅲ(内臓器)	1後	1			1					
	解剖学実習	2前	2			1					
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	2前	2								兼2
	基礎運動学	1後	1			1					兼1
	運動機能学	2前	1			1	1				
	運動学Ⅰ	1後	1			1	0	1			
	運動学Ⅱ	2前	1			1	1				
	運動学演習	2後	1			1	1	1			
	運動学演習(応用)	2後	1			1					
	人間発達学	1後	1								兼1
	運動生理学	1後	1			1					
	臨床心理学	2前	1								兼1
	病理学	2前	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼6
	内科学Ⅱ	2後	1								兼8
	整形外科学Ⅰ	2前	1								兼1
	整形外科学Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1
	精神医学Ⅱ	2後	1								兼1
神経内科学	2後	1								兼2	
小児科学	2前	1								兼7	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	社会学	1後		2							兼1
	心理学	1前	2								兼1
	発達心理学	1後		1							兼1
	ボランティア学	1後		1							兼1
	生命倫理学	1後		1							兼1
	小計(35科目)	—	15	28	0	8	5	6	3	0	兼71
専門基礎科目	解剖学Ⅰ(骨・筋)	1前	1			1					
	解剖学Ⅱ(神経)	1前	1			1					
	解剖学Ⅲ(内臓器)	1後	1			1					
	解剖学実習	2前	2			1					
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	2前	2								兼2
	基礎運動学	1後	1			1					兼1
	運動機能学	2前	1			1	1				
	運動学Ⅰ	1後	1						1		
	運動学Ⅱ	2前	1				1		1		
	運動学演習	2後	1				1	1	1		
	運動学演習(応用)	2後	1				1				
	人間発達学	1後	1								兼1
	運動生理学	1後	1			1					
	臨床心理学	2前	1								兼1
	病理学	2前	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼1
	内科学Ⅱ	2後	1								兼2
	整形外科学Ⅰ	2前	1								兼1
	整形外科学Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1
	精神医学Ⅱ	2後	1								兼1
神経内科学	2後	1								兼2	
小児科学	2前	1								兼6	
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	脳神経外科学	2後	1								兼1
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	一般臨床医学	2後		1							兼5
	老年医学概論	3前		1							兼1
	救命救急学概論	3後		1							兼1
	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	医療制度と関連法規	1後	1								兼1
	終末期医療論	3前		1							兼1
	小計(33科目)	—	31	4	0	9	4	3	1	0	兼33
専門科目	理学療法概論	1前	1			1					
	理学療法概論演習	1後	1			1		1			
	理学療法管理・リスクマネジメント	3後	1				1				
	臨床運動学	2後	1				1				
	統計学	1後	1								兼1
	理学療法学研究法	3前	1			1					
	理学療法研究法演習	3後	1			3	3	2			
	理学療法卒業研究	4通	4			3	3	2			
	作業療法概論	1前	1			1					
	作業療法理論	3前	1			1	1				
	作業療法管理・運営	3後	1					2			
	基礎作業学	1前	1				1	1			
	作業技術学Ⅰ(陶芸・織物)	1後	1					1			兼2
	作業技術学Ⅱ(木工・革細工)	2・3前		1				2			
	作業技術学Ⅲ(手工芸)	2・3前		1				1			
	作業分析学	2後	1			1		2			
	統計学	1後	1								兼1
	作業療法研究法	3前	1			2					
	作業療法研究法演習	3後	1			2	1				
	作業療法卒業研究	4通	4			3	2	3			
検査測定学概論	1後	1			1						
検査測定学演習	2前	1			1		1				
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	脳神経外科学	2後	1									兼2
	リハビリテーション医学	1後	1									兼1
	一般臨床医学	2後		1								兼6
	老年医学概論	3前		1								兼1
	救命救急学概論	3後		1								兼1
	リハビリテーション概論	1前	1				1					
	医療制度と関連法規	1後	1									兼1
	終末期医療論	3前		1								兼1
	小計(33科目)	—	31	4	0	7	4	4	1	0	兼38	
専門科目	理学療法概論	1前	1			1						
	理学療法概論演習	1後	1				0		1			
	理学療法管理・リスクマネジメント	3後	1				1	0				
	臨床運動学	2後	1					1		2		
	統計学	1後	1									兼1
	理学療法学研究法	3前	1				1					
	理学療法研究法演習	3後	1				5	3	2	2		
	理学療法卒業研究	4通	4				5	3	2	2		
	作業療法概論	1前	1				1					
	作業療法理論	3前	1					1				
	作業療法管理・運営	3後	1				1	0				
	基礎作業学	1前	1					1	1			
	作業技術学Ⅰ(陶芸・織物)	1後	1						1			兼2
	作業技術学Ⅱ(木工・革細工)	2・3前		1			1	0	1			
	作業技術学Ⅲ(手工芸)	2・3前		1					1	1		
	作業分析学	2後	1				2	0	1			
	統計学	1後	1									兼1
	作業療法研究法	3前	1				1					
	作業療法研究法演習	3後	1				1	0				
	作業療法卒業研究	4通	4				4	1	5	1		
検査測定学概論	1後	1				1						
検査測定学演習	2前	1				1		1				
卒業要件及び履修方法												
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。												

【平成27年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	脳神経外科学	2後	1								兼1
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	一般臨床医学	2後		1							兼4
	老年医学概論	3前		1							兼1
	救命救急学概論	3後		1							兼1
	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	医療制度と関連法規	1後	1								兼1
	終末期医療論	3前		1							兼1
	小計(33科目)	—	31	4	0	8	5	3	1	0	兼30
専門科目	理学療法概論	1前	1			1					
	理学療法概論演習	1後	1			1		1			
	理学療法管理・リスクマネジメント	3後	1				1				
	臨床運動学	2後	1				1				
	統計学	1後	1								兼1
	理学療法学研究法	3前	1			1					
	理学療法研究法演習	3後	1			3	3	2			
	理学療法卒業研究	4通	4			3	3	2			
	作業療法概論	1前	1			1					
	作業療法理論	3前	1			0	1				
	作業療法管理・運営	3後	1					2			
	基礎作業学	1前	1				1	1			
	作業技術学Ⅰ(陶芸・織物)	1後	1					1			兼2
	作業技術学Ⅱ(木工・革細工)	2・3前		1				2			
	作業技術学Ⅲ(手工芸)	2・3前		1				1			
	作業分析学	2後	1			1		2			
	統計学	1後	1								兼1
作業療法研究法	3前	1			1	1					
作業療法研究法演習	3後	1			1	2					
作業療法卒業研究	4通	4			3	3	3				
検査測定学概論	1後	1			1						
検査測定学演習	2前	1			1		1				
卒業要件及び履修方法											
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。											

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	脳神経外科学	2後	1									兼1
	リハビリテーション医学	1後	1									兼1
	一般臨床医学	2後		1								兼5
	老年医学概論	3前		1								兼1
	救命救急学概論	3後		1								兼1
	リハビリテーション概論	1前	1					1				
	医療制度と関連法規	1後	1									兼1
	終末期医療論	3前		1								兼1
	小計(33科目)	—	31	4	0	8	4	4	1	0	兼42	
専門科目	理学療法概論	1前	1			1						
	理学療法概論演習	1後	1			1		1				
	理学療法管理・リスクマネジメント	3後	1					1				
	臨床運動学	2後	1					1				
	統計学	1後	1									兼1
	理学療法学研究法	3前	1					1				
	理学療法研究法演習	3後	1					3	3	2		
	理学療法卒業研究	4通	4					3	3	2		
	作業療法概論	1前	1					1				
	作業療法理論	3前	1					0	1			
	作業療法管理・運営	3後	1						2			
	基礎作業学	1前	1					1	1			
	作業技術学Ⅰ(陶芸・織物)	1後	1						1			兼2
	作業技術学Ⅱ(木工・革細工)	2・3前		1					2			
	作業技術学Ⅲ(手工芸)	2・3前		1					1			
	作業分析学	2後	1					1	2			
	統計学	1後	1									兼1
作業療法研究法	3前	1					1	0	1			
作業療法研究法演習	3後	1					1	1	1			
作業療法卒業研究	4通	4					3	2	4			
検査測定学概論	1後	1					1					
検査測定学演習	2前	1					1	1				
卒業要件及び履修方法												
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。												

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	脳神経外科学	2後	1								兼2
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	一般臨床医学	2後		1							兼6
	老年医学概論	3前		1							兼1
	救命救急学概論	3後		1							兼8
	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	医療制度と関連法規	1後	1								兼1
	終末期医療論	3前		1							兼1
	小計(33科目)	—	31	4	0	8	4	4	1	0	兼55
専門科目	理学療法概論	1前	1			1					
	理学療法概論演習	1後	1			1	1				
	理学療法管理・リスクマネジメント	3後	1				1				
	臨床運動学	2後	1				1				
	統計学	1後	1								兼1
	理学療法学研究法	3前	1			1					
	理学療法研究法演習	3後	1			5	3	2			
	理学療法卒業研究	4通	4			5	3	2			
	作業療法概論	1前	1			1					
	作業療法理論	3前	1			0	1				
	作業療法管理・運営	3後	1				1	0			
	基礎作業学	1前	1				1	1			
	作業技術学Ⅰ(陶芸・織物)	1後	1					1			兼2
	作業技術学Ⅱ(木工・革細工)	2・3前		1			1	1			
	作業技術学Ⅲ(手工芸)	2・3前		1				1	1		
	作業分析学	2後	1			1	1	1			
	統計学	1後	1								兼1
	作業療法研究法	3前	1			2	0	0			
	作業療法研究法演習	3後	1			2	1	0			
作業療法卒業研究	4通	4			3	3	4	1			
検査測定学概論	1後	1			1						
検査測定学演習	2前	1			1						

卒業要件及び履修方法

必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	脳神経外科学	2後	1								兼2
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	一般臨床医学	2後		1							兼6
	老年医学概論	3前		1							兼1
	救命救急学概論	3後		1							兼1
	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	医療制度と関連法規	1後	1								兼1
	終末期医療論	3前		1							兼1
	小計(33科目)	—	31	4	0	7	4	4	1	0	兼36
専門科目	理学療法概論	1前	1			1					
	理学療法概論演習	1後	1			1		1			
	理学療法管理・リスクマネジメント	3後	1				1				
	臨床運動学	2後	1				1				
	統計学	1後	1								兼1
	理学療法学研究法	3前	1			1					
	理学療法研究法演習	3後	1			5	3	2			
	理学療法卒業研究	4通	4			5	3	2			
	作業療法概論	1前	1			1					
	作業療法理論	3前	1			0	1				
	作業療法管理・運営	3後	1				1	0			
	基礎作業学	1前	1				1	1			
	作業技術学Ⅰ(陶芸・織物)	1後	1					1			兼2
	作業技術学Ⅱ(木工・革細工)	2・3前		1			1	1			
	作業技術学Ⅲ(手工芸)	2・3前		1				1	1		
	作業分析学	2後	1			1	1	1			
	統計学	1後	1								兼1
	作業療法研究法	3前	1			2	0	0			
	作業療法研究法演習	3後	1			2	1	0			
作業療法卒業研究	4通	4			3	3	4	1			
検査測定学概論	1後	1			1						
検査測定学演習	2前	1			1						

卒業要件及び履修方法

必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	運動器系検査測定学	2後	1			1		1					
	神経系検査測定学	2前	1				1		1				
	動作解析学	3前	1				1						
	作業療法評価学概論	1後	1			1	1						
	作業療法評価学(身体Ⅰ)	2前	1			1	1						
	作業療法評価学(身体Ⅱ)	2前	1				1	1					
	作業療法評価学(精神)	2前	1			1							
	作業療法評価学総合演習	3後	1			3	2	3					
	運動療法学概論	1後	1				2						
	運動療法学基礎演習	2前	1				1	1					
	運動器系理学療法学	3前	1			1							
	運動器系理学療法学演習	3後	1					1					
	神経系理学療法学	3前	1				1						
	神経系理学療法学演習	3後	1				1						
	発達系理学療法学	3前	1			1							兼1
	老年期理学療法学	3前	1				1						兼1
	呼吸・循環系理学療法学	3前	1				1						兼1
	呼吸・循環系理学療法学演習	3後	1				1						兼1
	代謝系理学療法学	3前	1				1						
	物理療法学	2後	1						1				
	物理療法学演習	3前	1						1				
	日常生活活動学	2後	1			1							
	日常生活活動学演習	3前	1			1							
	義肢装具学Ⅰ	2後	1			1							
	義肢装具学Ⅱ	3前	1			1							
	クリニカルリーズニング論	3後	1				3	2					
	理学療法対象者行動論	3前	1			1							
	高次脳障害学	3前	1				2						
理学療法特論Ⅰ	3後	1				1	2						
理学療法特論Ⅱ	4後	1			3	1	2						
卒業要件及び履修方法													
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。													

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	運動器系検査測定学	2後	1			1		1					
	神経系検査測定学	2前	1				1	0					
	動作解析学	3前	1				1						
	作業療法評価学概論	1後	1			1	1						
	作業療法評価学(身体Ⅰ)	2前	1				0	0	1				
	作業療法評価学(身体Ⅱ)	2前	1							2			
	作業療法評価学(精神)	2前	1			1							
	作業療法評価学総合演習	3後	1				4	1	5	1			
	運動療法学概論	1後	1				0				2		
	運動療法学基礎演習	2前	1				0		1	1			
	運動器系理学療法学	3前	1				2						
	運動器系理学療法学演習	3後	1							1			
	神経系理学療法学	3前	1					1					
	神経系理学療法学演習	3後	1				1	0					
	発達系理学療法学	3前	1				1						兼1
	老年期理学療法学	3前	1				1						兼1
	呼吸・循環系理学療法学	3前	1				1						兼1
	呼吸・循環系理学療法学演習	3後	1				1						兼1
	代謝系理学療法学	3前	1				1						
	物理療法学	2後	1							1			
	物理療法学演習	3前	1							1			
	日常生活活動学	2後	1			1							
	日常生活活動学演習	3前	1			1							
	義肢装具学Ⅰ	2後	1			1							
	義肢装具学Ⅱ	3前	1			1							
	クリニカルリーズニング論	3後	1					3	2				
	理学療法対象者行動論	3前	1				1						
	高次脳障害学	3前	1				1	1					
理学療法特論Ⅰ	3後	1				1	1	1					
理学療法特論Ⅱ	4後	1			3	1	2						
卒業要件及び履修方法													
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。													

【平成27年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	運動器系検査測定学	2後	1			1		1					
	神経系検査測定学	2前	1				1		1				
	動作解析学	3前	1				1						
	作業療法評価学概論	1後	1			1	1						
	作業療法評価学(身体Ⅰ)	2前	1			1	1						
	作業療法評価学(身体Ⅱ)	2前	1				1	1					
	作業療法評価学(精神)	2前	1			1							
	作業療法評価学総合演習	3後	1			2	3	3					
	運動療法学概論	1後	1				2						
	運動療法学基礎演習	2前	1				1	1					
	運動器系理学療法学	3前	1			1							
	運動器系理学療法学演習	3後	1					1					
	神経系理学療法学	3前	1				1						
	神経系理学療法学演習	3後	1				1						
	発達系理学療法学	3前	1			1							
	老年期理学療法学	3前	1				1						兼1
	呼吸・循環系理学療法学	3前	1				1						兼1
	呼吸・循環系理学療法学演習	3後	1				1						兼1
	代謝系理学療法学	3前	1				1						
	物理療法学	2後	1						1				
	物理療法学演習	3前	1						1				
	日常生活活動学	2後	1			1							
	日常生活活動学演習	3前	1			1							
	義肢装具学Ⅰ	2後	1			1							
	義肢装具学Ⅱ	3前	1			1							
	クリニカルリーズニング論	3後	1				3	2					
	理学療法対象者行動論	3前	1			1							
	高次脳障害学	3前	1				2						
理学療法特論Ⅰ	3後	1				1	2						
理学療法特論Ⅱ	4後	1			3	1	2						
卒業要件及び履修方法													
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。													

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	運動器系検査測定学	2後	1			1		1					
	神経系検査測定学	2前	1				1		1				
	動作解析学	3前	1				1						
	作業療法評価学概論	1後	1			1	1						
	作業療法評価学(身体Ⅰ)	2前	1			1	1						
	作業療法評価学(身体Ⅱ)	2前	1				1	1					
	作業療法評価学(精神)	2前	1			1							
	作業療法評価学総合演習	3後	1				2	3	3				
	運動療法学概論	1後	1				2						
	運動療法学基礎演習	2前	1				1	1					
	運動器系理学療法学	3前	1			1							
	運動器系理学療法学演習	3後	1					1					
	神経系理学療法学	3前	1				1						
	神経系理学療法学演習	3後	1				1						
	発達系理学療法学	3前	1			1							
	老年期理学療法学	3前	1				1						兼1
	呼吸・循環系理学療法学	3前	1				1						兼1
	呼吸・循環系理学療法学演習	3後	1				1						兼1
	代謝系理学療法学	3前	1				1						
	物理療法学	2後	1						1				
	物理療法学演習	3前	1						1				
	日常生活活動学	2後	1			1							
	日常生活活動学演習	3前	1			1							
	義肢装具学Ⅰ	2後	1			1							
	義肢装具学Ⅱ	3前	1			1							
	クリニカルリーズニング論	3後	1				3	2					
	理学療法対象者行動論	3前	1			1							
	高次脳障害学	3前	1				2						
理学療法特論Ⅰ	3後	1				1	2						
理学療法特論Ⅱ	4後	1			3	1	2						
卒業要件及び履修方法													
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。													

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	運動器系検査測定学	2後	1			1		1					
	神経系検査測定学	2前	1				1						
	動作解析学	3前	1				1						
	作業療法評価学概論	1後	1			1	1						
	作業療法評価学(身体Ⅰ)	2前	1			1	1						
	作業療法評価学(身体Ⅱ)	2前	1				1	1					
	作業療法評価学(精神)	2前	1			1							
	作業療法評価学総合演習	3後	1			2	3	4	1				
	運動療法学概論	1後	1				2						
	運動療法学基礎演習	2前	1				1	1					
	運動器系理学療法学	3前	1			1							
	運動器系理学療法学演習	3後	1					1					
	神経系理学療法学	3前	1				1						兼1
	神経系理学療法学演習	3後	1				1						兼1
	発達系理学療法学	3前	1			1							兼1
	老年期理学療法学	3前	1				1						
	呼吸・循環系理学療法学	3前	1				1						
	呼吸・循環系理学療法学演習	3後	1				1						
	代謝系理学療法学	3前	1				1						
	物理療法学	2後	1					1					
	物理療法学演習	3前	1					1					
	日常生活活動学	2後	1			1							
	日常生活活動学演習	3前	1			1							
	義肢装具学Ⅰ	2後	1			1							
	義肢装具学Ⅱ	3前	1			1							
	クリニカルリーズニング論	3後	1				3	2					
	理学療法対象者行動論	3前	1			1							
高次脳障害学	3前	1				2							
理学療法特論Ⅰ	3後	1				1	2						
理学療法特論Ⅱ	4後	1			3	1	2						
卒業要件及び履修方法													
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。													

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	運動器系検査測定学	2後	1			1		1					
	神経系検査測定学	2前	1				1						
	動作解析学	3前	1				1						
	作業療法評価学概論	1後	1				1	1					
	作業療法評価学(身体Ⅰ)	2前	1				1	1					
	作業療法評価学(身体Ⅱ)	2前	1					0	2				
	作業療法評価学(精神)	2前	1				1						
	作業療法評価学総合演習	3後	1				2	3	4	1			
	運動療法学概論	1後	1					2					
	運動療法学基礎演習	2前	1					1	1				
	運動器系理学療法学	3前	1					1					
	運動器系理学療法学演習	3後	1						1				
	神経系理学療法学	3前	1					1					兼1
	神経系理学療法学演習	3後	1					1					兼1
	発達系理学療法学	3前	1					1					兼1
	老年期理学療法学	3前	1					1					
	呼吸・循環系理学療法学	3前	1					1					
	呼吸・循環系理学療法学演習	3後	1					1					
	代謝系理学療法学	3前	1					1					
	物理療法学	2後	1						1				
	物理療法学演習	3前	1							1			
	日常生活活動学	2後	1					1					
	日常生活活動学演習	3前	1					1					
	義肢装具学Ⅰ	2後	1					1					
	義肢装具学Ⅱ	3前	1					1					
	クリニカルリーズニング論	3後	1						3	2			
	理学療法対象者行動論	3前	1					1					
高次脳障害学	3前	1						2					
理学療法特論Ⅰ	3後	1					1	2					
理学療法特論Ⅱ	4後	1					3	1	1				
卒業要件及び履修方法													
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。													

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	身体障害作業療法Ⅰ(総論・中枢神経系)	2後	1			1	1					兼1
	身体障害作業療法Ⅱ(整形外科系・女性疾患)	3前	1				1					
	身体障害作業療法Ⅲ(応用)	3後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅰ(総論)	2後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅱ(各論)	3前	1			1		1				
	発達障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1					1				
	発達障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					1				
	老年期作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1	1				
	老年期作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	高次脳機能障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1					
	高次脳機能障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1				1					
	日常生活支援論Ⅰ(総論)	2前	1			1	1					
	日常生活支援論Ⅱ(各論)	2後	1			1	1					
	義肢装具学	3後	1			1						
	クリニカルリーズニング	3後	1				1					
	作業療法特論Ⅰ(身体障害)	4後		1		1						
	作業療法特論Ⅱ(精神障害)	4後		1		1		1				
	作業療法特論Ⅲ(発達障害)	4後		1				1				
	作業療法特論Ⅳ(老年期障害)	4後		1		1	1					
	作業療法特論Ⅴ(高次脳機能障害)	4後		1			1					
	作業療法学総合講義	4後	1			3	2	3				
	司法精神科作業療法	3後		1		1						
	生活支援機器論	3前		1		1						
	地域高齢者支援論	3前		1				2				
	徒手療法	3後		1		1						
	ウーマンズヘルスケア	3後		1			1					
スポーツ理学療法学	3後		1				1					
地域理学療法学	2前	1			1							
地域理学療法学演習	2後	1				2						
バリアフリー	3前	1								兼1		

卒業要件及び履修方法

必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	身体障害作業療法Ⅰ(総論・中枢神経系)	2後	1			2	0					兼1
	身体障害作業療法Ⅱ(整形外科系・女性疾患)	3前	1			1	0					
	身体障害作業療法Ⅲ(応用)	3後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅰ(総論)	2後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅱ(各論)	3前	1			1	0	0				
	発達障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1					0			兼1	
	発達障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					0			兼1	
	老年期作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1	1				
	老年期作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	高次脳機能障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1	0				
	高次脳機能障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1				1	0				
	日常生活支援論Ⅰ(総論)	2前	1			1	1					
	日常生活支援論Ⅱ(各論)	2後	1			1	1					
	義肢装具学	3後	1			1		1				
	クリニカルリーズニング	3後	1				1	0				
	作業療法特論Ⅰ(身体障害)	4後		1		1						
	作業療法特論Ⅱ(精神障害)	4後		1		1	0					
	作業療法特論Ⅲ(発達障害)	4後		1				1				
	作業療法特論Ⅳ(老年期障害)	4後		1		1	1					
	作業療法特論Ⅴ(高次脳機能障害)	4後		1			1	0				
	作業療法学総合講義	4後	1			4	1	5	1			
	司法精神科作業療法	3後		1		1						
	生活支援機器論	3前		1		1						
	地域高齢者支援論	3前		1				2				
	徒手療法	3後		1		1				2		
	ウーマンズヘルスケア	3後		1			1					
スポーツ理学療法学	3後		1				1					
地域理学療法学	2前	1			1							
地域理学療法学演習	2後	1				2						
バリアフリー	3前	1								兼1		

卒業要件及び履修方法

必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。

【平成27年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	身体障害作業療法Ⅰ(総論-中枢神経系)	2後	1			1	1					兼1
	身体障害作業療法Ⅱ(整形外科系-急性疾患)	3前	1				1					
	身体障害作業療法Ⅲ(応用)	3後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅰ(総論)	2後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅱ(各論)	3前	1			1		1				
	発達障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1					1				
	発達障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					1				
	老年期作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1	1				
	老年期作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	高次脳機能障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1					
	高次脳機能障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1				1					
	日常生活支援論Ⅰ(総論)	2前	1			1	1					
	日常生活支援論Ⅱ(各論)	2後	1			1	1					
	義肢装具学	3後	1			1	1					
	クリニカルリブズニング	3後	1				1					
	作業療法特論Ⅰ(身体障害)	4後		1		1						
	作業療法特論Ⅱ(精神障害)	4後		1		1		1				
	作業療法特論Ⅲ(発達障害)	4後		1				1				
	作業療法特論Ⅳ(老年期障害)	4後		1		0	2					
	作業療法特論Ⅴ(高次脳機能障害)	4後		1			1					
	作業療法学総合講義	4後	1			2	3	3				
	司法精神科作業療法	3後		1		1						
	生活支援機器論	3前		1		1						
	地域高齢者支援論	3前		1				2				
	徒手療法	3後		1		1						
	ウーマンズヘルスケア	3後		1			1					
	スポーツ理学療法学	3後		1				1				
	地域理学療法学	2前	1			1						
地域理学療法学演習	2後	1				2						
バリアフリー	3前	1								兼1		

卒業要件及び履修方法

必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	身体障害作業療法Ⅰ(総論-中枢神経系)	2後	1			1	1					兼1
	身体障害作業療法Ⅱ(整形外科系-急性疾患)	3前	1				1					
	身体障害作業療法Ⅲ(応用)	3後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅰ(総論)	2後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅱ(各論)	3前	1			1		1				
	発達障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1					1				
	発達障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					1				
	老年期作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1	1				
	老年期作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	高次脳機能障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1					
	高次脳機能障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1				1					
	日常生活支援論Ⅰ(総論)	2前	1			1	1					
	日常生活支援論Ⅱ(各論)	2後	1			1	1					
	義肢装具学	3後	1			1	0	1				
	クリニカルリブズニング	3後	1				1					
	作業療法特論Ⅰ(身体障害)	4後		1		1						
	作業療法特論Ⅱ(精神障害)	4後		1		1		1				
	作業療法特論Ⅲ(発達障害)	4後		1				1				
	作業療法特論Ⅳ(老年期障害)	4後		1		0	1	1				
	作業療法特論Ⅴ(高次脳機能障害)	4後		1			1					
	作業療法学総合講義	4後	1			2	2	2				
	司法精神科作業療法	3後		1		1						
	生活支援機器論	3前		1		1						
	地域高齢者支援論	3前		1				2				
	徒手療法	3後		1		1						
	ウーマンズヘルスケア	3後		1			1					
	スポーツ理学療法学	3後		1				1				
	地域理学療法学	2前	1			1						
地域理学療法学演習	2後	1				2						
バリアフリー	3前	1								兼1		

卒業要件及び履修方法

必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	身体障害作業療法Ⅰ(総論-中枢神経系)	2後	1			1	1					兼1
	身体障害作業療法Ⅱ(整形外科系-急性疾患)	3前	1				1					
	身体障害作業療法Ⅲ(応用)	3後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅰ(総論)	2後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅱ(各論)	3前	1			0	1	0				
	発達障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1					1				
	発達障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					1				
	老年期作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1	1				
	老年期作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	高次脳機能障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1					
	高次脳機能障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1				1					
	日常生活支援論Ⅰ(総論)	2前	1			1	1					
	日常生活支援論Ⅱ(各論)	2後	1			1	1					
	義肢装具学	3後	1			1	0	1				
	クリニカルリーズニング	3後	1				1					
	作業療法特論Ⅰ(身体障害)	4後		1		1						
	作業療法特論Ⅱ(精神障害)	4後		1		0	1	0				
	作業療法特論Ⅲ(発達障害)	4後		1				1				
	作業療法特論Ⅳ(老年期障害)	4後		1		0	1	1				
	作業療法特論Ⅴ(高次脳機能障害)	4後		1			1					
	作業療法学総合講義	4後	1			2	3	4	1			
	司法精神科作業療法	3後		1		1						
	生活支援機器論	3前		1		1						
	地域高齢者支援論	3前		1				2				
	徒手療法	3後		1		1						
	ウーマンズヘルスケア	3後		1			1					
	スポーツ理学療法学	3後		1				1				
	地域理学療法学	2前	1			1						
地域理学療法学演習	2後	1			2							
バリアフリー	3前	1								兼1		

卒業要件及び履修方法

必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	身体障害作業療法Ⅰ(総論-中枢神経系)	2後	1			1	1					兼1
	身体障害作業療法Ⅱ(整形外科系-急性疾患)	3前	1				1					
	身体障害作業療法Ⅲ(応用)	3後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅰ(総論)	2後	1			1						
	精神障害作業療法Ⅱ(各論)	3前	1			0	1	0				
	発達障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1					1				
	発達障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					1				
	老年期作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1	1				
	老年期作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	高次脳機能障害作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1					
	高次脳機能障害作業療法Ⅱ(各論)	3後	1				1					
	日常生活支援論Ⅰ(総論)	2前	1			1	1					
	日常生活支援論Ⅱ(各論)	2後	1			1	1					
	義肢装具学	3後	1			1	0	1				
	クリニカルリーズニング	3後	1				1					
	作業療法特論Ⅰ(身体障害)	4後		1		1						
	作業療法特論Ⅱ(精神障害)	4後		1		0	1	0				
	作業療法特論Ⅲ(発達障害)	4後		1				1				
	作業療法特論Ⅳ(老年期障害)	4後		1		0	1	1				
	作業療法特論Ⅴ(高次脳機能障害)	4後		1			1					
	作業療法学総合講義	4後	1			2	3	4	1			
	司法精神科作業療法	3後		1		1						
	生活支援機器論	3前		1		1						
	地域高齢者支援論	3前		1				2				
	徒手療法	3後		1		1						
	ウーマンズヘルスケア	3後		1			1					
	スポーツ理学療法学	3後		1				1				
	地域理学療法学	2前	1			1						
地域理学療法学演習	2後	1			2							
バリアフリー	3前	1								兼1		

卒業要件及び履修方法

必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	リハビリテーション工学	3後	1									兼1
	地域作業療法Ⅰ(総論)	3前	1					2				
	地域作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	生活環境整備論	3前	1					2				
	社会生活支援論	3後	1					2				
	見学実習(理学療法)	1前	1			3	3	2	2			
	見学実習(作業療法)	1前	1			3	2	3				
	検査・測定実習	3前	2			3	2	3				
	評価学実習	3後	4			3	3	2	2			
	評価実習	3後	4			3	2	3				
	総合臨床実習Ⅰ(理学療法)	4前	7			3	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅱ(理学療法)	4前	7			3	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅰ(作業療法)	4前	8			3	2	3				
	総合臨床実習Ⅱ(作業療法)	4前	8			3	2	3				
	小計(96科目)	-	122	13	0	66	48	64	8	0		兼10
	合計(164科目)	-	168	45	0	82	57	72	11	0		兼105
卒業要件及び履修方法												
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	リハビリテーション工学	3後	1									兼1
	地域作業療法Ⅰ(総論)	3前	1					1	1			
	地域作業療法Ⅱ(各論)	3後	1						2			
	生活環境整備論	3前	1					1	2			
	社会生活支援論	3後	1					1	0	2		
	見学実習(理学療法)	1前	1			5	3	2	2			
	見学実習(作業療法)	1前	1			4	1	5	1			
	検査・測定実習	3前	2			4	1	5	1			
	評価学実習	3後	4			5	3	2	2			
	評価実習	3後	4			4	1	5	1			
	総合臨床実習Ⅰ(理学療法)	4前	7			5	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅱ(理学療法)	4前	7			5	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅰ(作業療法)	4前	8			4	1	5	1			
	総合臨床実習Ⅱ(作業療法)	4前	8			4	1	5	1			
	小計(96科目)	-	122	13	0	92	34	71	24	0		兼12
	合計(164科目)	-	168	45	0	108	42	83	28	0		兼121
卒業要件及び履修方法												
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。												

【平成27年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	リハビリテーション工学	3後	1									兼1
	地域作業療法Ⅰ(総論)	3前	1					2				
	地域作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	生活環境整備論	3前	1					2				
	社会生活支援論	3後	1					2				
	見学実習(理学療法)	1前	1			3	3	2	2			
	見学実習(作業療法)	1前	1			2	3	3				
	検査・測定実習	3前	2			2	3	3				
	評価学実習	3後	4			3	3	2	2			
	評価実習	3後	4			2	3	3				
	総合臨床実習Ⅰ(理学療法)	4前	7			3	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅱ(理学療法)	4前	7			3	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅰ(作業療法)	4前	8			2	3	3				
	総合臨床実習Ⅱ(作業療法)	4前	8			2	3	3				
	小計(96科目)	-	122	13	0	56	59	64	8	0		兼10
	合計(164科目)	-	168	45	0	70	70	72	11	0		兼99
卒業要件及び履修方法												
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。												

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	リハビリテーション工学	3後	1									兼1
	地域作業療法Ⅰ(総論)	3前	1					2				
	地域作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	生活環境整備論	3前	1					2				
	社会生活支援論	3後	1					2				
	見学実習(理学療法)	1前	1			3	3	2	2			
	見学実習(作業療法)	1前	1			2	2	4				
	検査・測定実習	3前	2			2	2	4				
	評価学実習	3後	4			3	3	2	2			
	評価実習	3後	4			2	2	4				
	総合臨床実習Ⅰ(理学療法)	4前	7			3	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅱ(理学療法)	4前	7			3	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅰ(作業療法)	4前	8			2	2	4				
	総合臨床実習Ⅱ(作業療法)	4前	8			2	2	4				
	小計(96科目)	-	122	13	0	56	48	73	8	0		兼10
	合計(164科目)	-	168	45	0	70	57	83	11	0		兼112
卒業要件及び履修方法												
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。												

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	リハビリテーション工学	3後	1									兼1
	地域作業療法Ⅰ(総論)	3前	1			1	1					
	地域作業療法Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	生活環境整備論	3前	1					2				
	社会生活支援論	3後	1			0	1	2				
	見学実習(理学療法)	1前	1			5	3	2	2			
	見学実習(作業療法)	1前	1			2	3	4	1			
	検査・測定実習	3前	2			2	3	4	1			
	評価学実習	3後	4			5	3	2	2			
	評価実習	3後	4			2	3	4	1			
	総合臨床実習Ⅰ(理学療法)	4前	7			5	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅱ(理学療法)	4前	7			5	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅰ(作業療法)	4前	8			2	3	4	1			
	総合臨床実習Ⅱ(作業療法)	4前	8			2	3	4	1			
	小計(96科目)	—	122	13	0	68	62	66	16	0		兼10
合計(164科目)	—	168	45	0	84	71	76	20	0		兼129	
卒業要件及び履修方法												
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	リハビリテーション工学	3後	1									兼1
	地域作業療法Ⅰ(総論)	3前	1				1	1				
	地域作業療法Ⅱ(各論)	3後	1						2			
	生活環境整備論	3前	1					1	2			
	社会生活支援論	3後	1			0	1	2				
	見学実習(理学療法)	1前	1			5	3	2	2			
	見学実習(作業療法)	1前	1			2	3	4	1			
	検査・測定実習	3前	2			2	3	4	1			
	評価学実習	3後	4			5	3	2	2			
	評価実習	3後	4			2	3	4	1			
	総合臨床実習Ⅰ(理学療法)	4前	7			5	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅱ(理学療法)	4前	7			5	3	2	2			
	総合臨床実習Ⅰ(作業療法)	4前	8			2	3	4	1			
	総合臨床実習Ⅱ(作業療法)	4前	8			2	3	4	1			
	小計(96科目)	—	122	13	0	63	62	66	16	0		兼10
合計(164科目)	—	168	45	0	78	71	76	20	0		兼117	
卒業要件及び履修方法												
必修科目103単位、総合教育科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から2単位、専門科目から3単位以上を習得し、126単位以上修得すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成27年度】

- ・ 専任教員兼任教員の補充と辞退により、「チーム医療論」の専任教員等配置を「教授7」から「教授6」に、「准教授5」から「講師6」に、「兼任26」から「兼任22」に変更
- ・ 講義内容の充実をはかり、「英語Ⅰ」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更
- ・ 講義内容の充実をはかり、「英語Ⅱ」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更
- ・ 兼任教員辞退により、「英語Ⅲ」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任0」に変更
- ・ 専任教員の辞退のため、「運動学Ⅰ」の専任教員配置を「教授2」から「教授1」に、「准教授0」から「准教授1」に変更
- ・ 専任教員の辞退のため、「内科学Ⅰ」の兼任教員配置を「兼任4」から「兼任3」に変更
- ・ 専任教員の辞退のため、「内科学Ⅱ」の兼任教員配置を「兼任5」から「兼任4」に変更
- ・ 専任教員の辞退のため、「一般臨床医学」の兼任教員配置を「兼任5」から「兼任4」に変更
- ・ 専任の辞退により、「作業療法理論」の専任教員配置を「教授1」から「教授0」に変更
- ・ 専任の辞退により、「作業療法研究法」の専任教員配置を「教授2」から「教授1」に、「准教授0」から「准教授1」に変更
- ・ 専任の辞退により、「作業療法研究法演習」の専任教員配置を「教授2」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授2」に変更
- ・ 専任教員補充により、「作業療法卒業研究」の専任教員配置を「講師2」から「講師3」に変更
- ・ 専任の辞退と補充により、「作業療法評価学総合演習」の専任教員配置を「教授3」から「教授2」に、「准教授2」から「准教授3」に変更
- ・ 専任の補充により、「義肢装具学」の専任教員配置を「准教授0」から「准教授1」に変更
- ・ 専任の補充により、「作業療法特論Ⅳ(老年期障害)」の専任教員配置を「教授1」から「教授0」に「准教授0」から「准教授2」に変更
- ・ 専任の補充により、「作業療法学総合講義」の専任教員配置を「教授3」から「教授2」に「准教授2」から「准教授3」に変更
- ・ 専任の辞退により、「見学実習(作業療法)」の専任教員配置を「教授3」から「教授2」に、「准教授2」から「准教授3」に変更
- ・ 専任の辞退により、「検査・測定実習」の専任教員配置を「教授3」から「教授2」に、「准教授2」から「准教授3」に変更
- ・ 専任の辞退により、「評価実習」の専任教員配置を「教授3」から「教授2」に、「准教授2」から「准教授3」に変更
- ・ 専任の辞退により、「総合臨床実習Ⅰ(作業療法)」「総合臨床実習Ⅱ(作業療法)」の専任教員配置を「教授3」から「教授2」に、「准教授2」から「准教授3」に変更

【平成28年度】

- ・教員審査と再審査の結果により、「チーム医療論」の専任教員等配置を「准教授6」から「准教授5」に、「講師5」から「講師6」に変更
- ・兼任教員補充により、「英語Ⅲ」の兼任教員配置を「兼任0」から「兼任1」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「運動学Ⅰ」の専任教員配置を「教授0」から「教授1」に「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「内科学Ⅰ」の兼任教員配置を「兼任3」から「兼任5」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「内科学Ⅱ」の兼任教員配置を「兼任4」から「兼任8」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「神経内科学」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「小児科学」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任5」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「一般臨床医学」の兼任教員配置を「兼任4」から「兼任5」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「作業療法研究法」の専任教員配置を「准教授1」から「准教授0」に、「講師0」から「講師1」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「作業療法研究法演習」の専任教員配置を「准教授1」から「准教授0」に、「講師0」から「講師1」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「作業療法卒業研究」の専任教員配置を「准教授3」から「准教授2」に、「講師3」から「講師4」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「作業療法評価学総合演習」の専任教員配置を「准教授3」から「准教授2」に、「講師2」から「講師3」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「義肢装具学」の専任教員配置を「准教授1」から「准教授0」に「講師0」から「講師1」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「作業療法特論Ⅳ(老年期障害)」の専任教員配置を「准教授1」から「教授0」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「作業療法学総合講義」の専任教員配置を「准教授3」から「准教授2」に「講師2」から「講師3」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「見学実習(作業療法)」の専任教員配置を「准教授3」から「准教授2」に、「講師3」から「講師4」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「検査・測定実習」の専任教員配置を「准教授3」から「准教授2」に、「講師3」から「講師4」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「評価実習」の専任教員配置を「准教授3」から「准教授2」に、「講師3」から「講師4」に変更
- ・教員審査と再審査の結果により、「総合臨床実習Ⅰ(作業療法)」「総合臨床実習Ⅱ(作業療法)」の専任教員配置を「准教授3」から「准教授2」に、「講師3」から「講師4」に変更

【平成29年度】

- ・専任兼任補充により、「チーム医療論」の専任教員等配置を「教授6」から「教授8」に、「助教2」から「助教3」に、「兼任22」から「兼任26」に変更
- ・兼任補充により、「物理学」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「放射線概論」の専任教員兼任教員配置を「兼任2」から「教授1」「兼任1」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「生理学実習」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「小児科学」の兼任教員配置を「兼任5」から「兼任7」に変更
- ・講義内容の充実をはかり、「脳神経外科学」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更
- ・専任教員の辞退により、「救命救急学概論」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任8」に変更
- ・専任補充により、「理学療法研究法演習」「理学療法卒業研究」の専任教員配置を「教授3」から「教授5」に変更
- ・専任教員の負担減のため、「作業療法管理・運営」の専任教員配置を「准教授0」から「准教授1」に、「講師2」から「講師0」に変更
- ・専任教員の負担減のため、「作業技術学Ⅱ(木工・革細工)」の専任教員配置を「准教授0」から「准教授1」へ、「講師2」から「講師1」へ変更
- ・専任補充により、「作業技術学Ⅲ(手工芸)」の専任教員配置を「助教0」から「助教1」に変更
- ・専任教員の負担減のため、「作業分析学」の専任教員配置を「准教授0」から「准教授1」に、「講師2」から「講師1」に変更
- ・専任教員の負担減のため、「作業療法研究法」の専任教員配置を「教授1」から「教授2」に、「講師0」から「講師1」に変更
- ・専任教員の負担減のため、「作業療法研究法演習」の専任教員配置を「教授1」から「教授2」に、「講師1」から「講師0」に変更
- ・専任補充により、「作業療法卒業研究」の専任教員配置を「准教授2」から「准教授3」に、「講師0」から「講師1」に変更
- ・専任補充により、「作業療法評価学総合演習」の専任教員配置を「講師3」から「講師4」に、「助教0」から「助教1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「精神障害作業療法学Ⅱ(各論)」の専任教員配置を「教授1」から「教授0」に、「准教授0」から「准教授1」に、「講師1」から「講師0」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「作業療法特論Ⅱ(精神障害)」の専任教員配置を「教授1」から「教授0」に、「准教授0」から「准教授1」に、「講師1」から「講師0」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「作業療法特論Ⅳ(老年期障害)」の専任教員配置を「講師0」から「講師1」に変更
- ・専任教員の補充により、「作業療法総合講義」の専任教員配置が「准教授2」から「准教授3」に、「講師2」から「講師4」に「助教0」から「助教1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「地域作業療法学Ⅰ(総論)」の専任教員配置を「准教授0」から「准教授1」に、「講師2」から「講師1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「社会生活支援論」の専任教員配置を「准教授0」から「准教授1」に変更
- ・専任教員の補充により、「見学実習(理学療法)」の専任教員配置を「教授3」から「教授5」に変更
- ・専任教員の補充により、「見学実習(作業療法)」の専任教員配置を「准教授2」から「准教授3」に、「助教0」から「助教1」に変更
- ・専任教員の補充により、「検査・測定実習」の専任教員配置を「准教授2」から「准教授3」に、「助教0」から「助教1」に変更
- ・専任教員の補充により、「評価学実習」の専任教員配置を「教授3」から「教授5」に変更
- ・専任教員の補充により、「評価実習」の専任教員配置を「准教授2」から「准教授3」に、「助教0」から「助教1」に変更
- ・専任教員の補充により、「総合臨床実習Ⅰ(理学療法)」「総合臨床実習Ⅱ(理学療法)」の専任教員配置を「教授3」から「教授5」に変更
- ・専任教員の補充により、「総合臨床実習Ⅰ(作業療法)」「総合臨床実習Ⅱ(作業療法)」の専任教員配置を「准教授2」から「准教授3」に、「助教0」から「助教1」に変更

【平成30年度】

- ・兼任補充により、「チーム医療論」の兼任教員等配置を「兼任26」から「兼任33」に変更。
- ・兼任教員の辞退により、「生化学」の兼任教員配置を「兼任2」から「兼任1」へ変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「運動学Ⅰ」の専任教員配置を「教授1」から「教授0」に変更
- ・オムニバス形式から講師1人での科目対応にする理由のため、「内科学Ⅰ」の兼任教員配置を「兼任6」から「兼任1」に変更
- ・オムニバス形式から講師2人での科目対応にする理由のため、「内科学Ⅱ」の兼任教員配置を「兼任8」から「兼任2」に変更
- ・兼任教員の辞退により、「一般臨床医学」の兼任教員配置を「兼任7」から「兼任6」へ変更
- ・オムニバス形式から講師1人での科目対応にする理由のため、「救命救急学概論」の兼任教員配置を「兼任8」から「兼任1」に変更
- ・兼任教員の辞退により、「作業療法評価学(精神)」の「准教授1」から「准教授0」へ、「講師1」から「講師2」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「理学療法特論Ⅱ」の専任教員配置を「講師2」から「講師1」に変更
- ・科目内容充実の理由により、「生活環境整備論」の専任教員配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「見学実習(理学療法)」、「総合臨床実習Ⅰ(理学療法)」、「総合臨床実習Ⅱ(理学療法)」の専任教員配置を「教授5」から「教授3」に変更

【令和元年度】

- ・専任教員の昇任退職入職、兼任教員の退職入職辞退にともない、「チーム医療論」の専任教員配置を「教授8」「准教授5」「講師6」「助教3」「兼任33」から「教授9」「准教授4」「講師8」「助教3」「兼32」に変更
- ・兼任補充により、「チーム医療論」の兼任教員等配置を「兼任26」から「兼任33」に変更
- ・兼任教員の負担減の理由により、「国際保健医療論」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任2」へ変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「運動機能学」の専任教員配置を「准教授1」から「准教授1」「助教2」に変更
- ・兼任教員の負担減の理由により、「小児科学」の兼任教員配置を「兼任6」から「兼任8」へ変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「理学療法概論演習」の兼任教員配置を「教授1」「講師1」から「講師1」へ変更
- ・専任教員の科目担当変更により、「理学療法管理・リスクマネジメント」の配置を「准教授1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「臨床運動学」の専任教員配置を「准教授1」から「准教授1」「助教2」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「理学療法研究法演習」の専任教員配置に「助教2」を追加
- ・専任教員の負担減の理由により、「理学療法卒業研究」の専任教員配置に「助教2」を追加
- ・専任教員の退職に伴い、「作業療法管理・運営」の専任教員配置が「准教授1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の退職に伴い、「作業技術学Ⅱ(木工・革細工)」の専任教員配置が「准教授1」「講師1」から「教授1」「講師1」に変更
- ・専任教員の退職に伴い、「作業分析学」の専任教員配置が「教授1」「准教授1」「講師1」から「教授2」「講師1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「作業療法研究法」の専任教員配置を「教授2」から「教授1」に変更
- ・専任教員の昇任退職入職に伴い、「作業療法卒業研究」の専任教員配置が「教授2」「准教授3」「講師4」「助教1」から「教授4」「准教授1」「講師5」「助教1」に変更
- ・兼任教員の科目担当変更により、「神経系検査測定学」の配置を「准教授1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「作業療法評価学(身体Ⅰ)」の専任教員配置を「教授1」「准教授1」「講師1」から「講師1」に変更
- ・専任教員の昇任退職入職に伴い、「作業療法評価学総合演習」の専任教員配置が「教授2」「准教授3」「講師4」「助教1」から「教授4」「准教授1」「講師5」「助教1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「運動療法学概論」の専任教員配置を「准教授1」から「助教2」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「運動療法学基礎演習」の専任教員配置を「准教授1」「講師1」から「講師1」「助教1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「運動器系理学療法学」の専任教員配置を「教授1」から「教授2」に変更
- ・専任教員の科目担当変更により、「神経系理学療法学演習」の配置を「准教授1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の昇任に伴い、「高次脳障害学」の配置が「准教授2」から「教授1」「准教授1」に変更
- ・専任教員の昇任に伴い、「理学療法特論Ⅰ」の配置が「准教授1」「講師2」から「教授1」「准教授1」「講師1」に変更
- ・専任教員の昇任に伴い、「理学療法特論Ⅱ」の配置が「教授3」「准教授1」「講師1」から「教授3」「准教授1」「講師2」に変更
- ・専任教員の昇任に伴い、「身体障害作業療法Ⅰ(総論・中枢神経系)」の配置が「教授1」「准教授1」から「教授2」に変更
- ・専任教員の昇任に伴い、「身体障害作業療法Ⅱ(整形外科・変性疾患)」の配置が「教授1」「兼任1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の退職に伴い、「精神障害作業療法Ⅱ(各論)」の配置が「准教授1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「発達障害作業療法Ⅰ(総論)」の専任教員配置を「講師1」から「兼任1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「発達障害作業療法Ⅱ(各論)」の専任教員配置を「講師1」から「兼任1」に変更
- ・専任教員の昇任により、「高次脳機能障害作業療法Ⅰ(総論)」の専任教員配置が「准教授1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の昇任により、「高次脳機能障害作業療法Ⅱ(各論)」の専任教員配置が「准教授1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の昇任により、「クリニカルリーズニング論」の専任教員配置が「准教授1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の退職に伴い、「作業療法特論Ⅱ(精神障害)」の専任教員配置が「准教授1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の昇任により、「作業療法特論Ⅴ(高次脳機能障害)」の専任教員配置が「准教授1」から「教授1」に変更
- ・専任教員の昇任退職入職に伴い、「作業療法総合講義」の専任教員配置が「教授2」「准教授3」「講師4」「助教1」から「教授4」「准教授1」「講師5」「助教1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「徒手療法」の専任教員配置を「教授1」から「教授1」「助教2」に変更
- ・専任教員の退職に伴い、「社会生活支援論」の専任教員配置が「准教授1」「講師2」から「教授1」「講師2」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「見学実習(理学療法)」の専任教員配置を「教授3」「准教授3」「講師2」「助教2」から「教授5」「准教授3」「講師2」「助教2」に変更
- ・専任教員の昇任退職入職に伴い、「見学実習(作業療法)」の専任教員配置が「教授2」「准教授3」「講師4」「助教1」から「教授4」「准教授1」「講師5」「助教1」に変更
- ・専任教員の昇任退職入職に伴い、「検査・測定実習」の専任教員配置が「教授2」「准教授3」「講師4」「助教1」から「教授4」「准教授1」「講師5」「助教1」に変更
- ・専任教員の昇任退職入職に伴い、「評価実習」の専任教員配置が「教授2」「准教授3」「講師4」「助教1」から「教授4」「准教授1」「講師5」「助教1」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「総合臨床実習Ⅰ(理学療法)」の専任教員配置を「教授3」「准教授3」「講師2」「助教2」から「教授5」「准教授3」「講師2」「助教2」に変更
- ・専任教員の負担減の理由により、「総合臨床実習Ⅱ(理学療法)」の専任教員配置を「教授3」「准教授3」「講師2」「助教2」から「教授5」「准教授3」「講師2」「助教2」に変更
- ・専任教員の昇任退職入職に伴い、「総合臨床実習Ⅰ(作業療法)」の専任教員配置が「教授2」「准教授3」「講師4」「助教1」から「教授4」「准教授1」「講師5」「助教1」に変更
- ・専任教員の昇任退職入職に伴い、「総合臨床実習Ⅱ(作業療法)」の専任教員配置が「教授2」「准教授3」「講師4」「助教1」から「教授4」「准教授1」「講師5」「助教1」に変更

(注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

①リハビリテーション学科

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
123 科目	41 科目	0 科目	164 科目	123 科目 [0]	41 科目 [0]	0 科目 [0]	164 科目 [0]	

②リハビリテーション学科理学療法専攻

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
79 科目	34 科目	0 科目	113 科目	79 科目 [0]	34 科目 [0]	0 科目 [0]	113 科目 [0]	

③リハビリテーション学科作業療法専攻

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
76 科目	41 科目	0 科目	117 科目	76 科目 [0]	41 科目 [0]	0 科目 [0]	117 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

①リハビリテーション学科

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

②リハビリテーション学科理学療法専攻

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

③リハビリテーション学科作業療法専攻

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

①リハビリテーション学科

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

②リハビリテーション学科理学療法専攻

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

③リハビリテーション学科作業療法専攻

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

①リハビリテーション学科

未開講科目及び廃止科目はありません。

①リハビリテーション学科理学療法学専攻

未開講科目及び廃止科目はありません。

①リハビリテーション学科作業療法学専攻

未開講科目及び廃止科目はありません。

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

①リハビリテーション学科

未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	0	=	0%
設置時の計画の授業科目数の計(A)		164		

①リハビリテーション学科理学療法学専攻

未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	0	=	0%
設置時の計画の授業科目数の計(A)		113		

①リハビリテーション学科作業療法学専攻

未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	0	=	0%
設置時の計画の授業科目数の計(A)		117		

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積： 校舎敷地6,629.408㎡ 運動場用地1,252.57㎡ 移動時間シャトルバス19分 (7.55km) 借用期間： 校舎敷地 平成25年7 月から22年9ヶ月 運動場用地 平成27年 4月から20年 自己所有面積 7921.66 ㎡を追加(30)		
	校 舎 敷 地	6,629.408㎡ 14,551.06㎡	0㎡	0㎡	6,629.408㎡ 14,551.06㎡			
	運 動 場 用 地	1,252.57㎡	0㎡	0㎡	1,252.57㎡			
	小 計	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	合 計	7,881.978㎡ 15,803.63㎡	0㎡	0㎡	7,881.978㎡ 15,803.63㎡			
(2) 校 舎	専 用	14,645.14㎡ 15,671.19㎡	0㎡	0㎡	14,645.14㎡ 15,671.19㎡	①借用面積：699.70㎡ ①借用期間：平成27年 4月から20年 ②借用面積：1,026.05 ㎡ ②借用期間：平成31年 4月から20年(30)		
	(14,645.14㎡) (15,671.19㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(14,645.14㎡) (15,671.19㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 ※講義室4と兼用 講義室3 (27) (補助職員 人) (補助職員 人)		
	17 室	11 室	15 室	※ 0 室 (補助職員 人)	0 室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	保健医療学部			49 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学生の教養教育涵養及び 修学環境を改善する ため、図書348冊、学 術雑誌6種、視聴覚資 料6点、機械・器具553 点を前倒して購入(27) 設置計画に伴う購入及び学 生の修学環境の充実を図 るため、図書4,033冊、学 術雑誌61種、視聴覚資料24 点追加 機械・器具1,383点追加 機械・器具及び標本欄につ いては記入漏れのため、追 記(28) 設置計画に伴う購入及び学 生の修学環境の充実を図 るため、図書3,863冊、学 術雑誌36種、視聴覚資料16 点追加した。(29)
	保健医療学部	10,300 [1,100]	120 [20] 126 [22] 187 [31] 192 [31] 195 [31]	6 [6] 6 [1]	268 274 298 314 388	10,350 10,905 10,966 11,040	43 56	
		(4,900 [500]) (5,248 [395]) (9,281 [569]) (13,144 [822]) (14,524 [829]) (15,674 [878])	(120 [20]) (126 [22]) (187 [31]) (223 [31]) (260 [40]) (312 [53])	(6 [6]) (6 [1]) (12 [4])	(268) (274) (298) (314) (388) (524)	(8,642) (9,133) (10,516) (11,040)	(43) (56)	
	計	10,300 [1,100]	120 [20] 126 [22] 187 [31] 192 [31] 195 [31]	6 [6] 6 [1]	268 274 298 314 388	10,350 10,905 10,966 11,040	43 56	
	(4,900 [500]) (5,248 [395]) (9,281 [569]) (13,144 [822]) (14,524 [829]) (15,674 [878])	(120 [20]) (126 [22]) (187 [31]) (223 [31]) (260 [40]) (312 [53])	(6 [6]) (6 [1]) (12 [4])	(268) (274) (298) (314) (388) (524)	(8,642) (9,133) (10,516) (11,040)	(43) (56)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		修学環境を改善するた め、閲覧座席数を12席 追加(27)	
	486.91 ㎡		164 一席 176 席		18,900 冊			

(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		637.07 m ²		屋外グラウンド					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。図書及び設備の一部を前倒して購入(27)
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	300千円	300千円	図書購入費	25,952千円 26,814千円	14,808千円 15,112千円	8,382千円	
		共 同 研 究 費 等	4,200千円	6,000千円	設備購入費	252,575千円 274,217千円	126,034千円 108,276千円	5,000千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金 (リベリテーション学科)	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		1,760千円	1,680千円	1,680千円	1,680千円	- 千円	- 千円		
		学生納付金以外の維持方法の概要							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	湘 南 医 療 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
保健医療学部									神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48	
看護学科	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	1.15		平成27年度	同上	
リハビリテー ション学科									同上	
理学療法学専攻	4	40	-	160	学士 (理学療法学)	1.12		平成27年度	同上	
作業療法学専攻	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	1.05		平成27年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の 実施計画	
設置計画履行 状況調査時 (平成31年3月)	図書館に設置された文献検索用パソコンが数台に限られており、学修への支障が懸念されることから、台数の増加や、学内無線ネットワークの整備など、学修環境の向上に努めること。	指摘事項 (改善)	図書館における学修環境の整備として、文献検索やグループ学習等に広く活用できるパソコン13台を新たに設置した。(元)	履行済
設置計画履行 状況調査時 (平成31年3月)	学生の就職活動を組織的に支援する体制が整備されていないため、適切な体制の整備に努めること。	指摘事項 (改善)	平成30年11月よりキャリア支援センターを設置し、センター内に求人票を配置し、学生が常時求人情報を有効活用できる環境を整備した。また、担当教員を配置し、学科専攻と連携した相談体制を構築するなど、組織的に就職活動を支援できる体制を整備した。(元)	履行済
設置計画履行 状況調査時 (平成31年3月)	学生からの授業アンケートの結果や教職員・学生からの意見・要望などを大学全体で情報共有できる仕組みが整備されていないため、適切に周知ができるよう努めること。	指摘事項 (改善)	学生からの授業評価アンケートについては、集計結果等を関係委員会等において協議するとともに、学生掲示板に掲示するなど、周知している。(元)	履行済
設 置 時 (平成26年10月)	設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項	設置申請の履行とともに、入学生に基礎学力調査を行い、学生の能力を把握した教育指導を各教員がチューター・担任等として、きめ細やかな学修指導を行う。また、教育研究水準の一層の向上が、4年制大学にふさわしい教育研究活動に結びついていくため、今後の教育活動等を行っていく。 (27)	履行済

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>研究推進室及び地域連携推進室について、例えば研究推進室が「授業内容及び授業方法の改善を図るための研究」を目的とするのであれば、推進室における医療従事者の役割や位置付けが不明瞭である。このため、研究推進室及び地域連携推進室については、学則第1条及び第4条の趣旨や目的を確実に達成するよう、特に医療従事者の役割や位置付けを明確にした上で具体的な業務内容を不断に検証し、両推進室の改善を図ること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>学則第1条及び第4条の趣旨や目的を確実に達成するため、授業内容及び授業方法の改善を図るための研究（学則4条）を組織的に行うことを基本とし、大学教員が主導的役割を果たしていく。一方その足らざる所（臨床現場の経験等）を医療従事者が担い非常勤の研究者として参画していただく。教員と研究員の役割や位置付けを明確にした上で、具体的な業務内容を副学長（室長）が中心となって推進すると共に、不断に検証し大学の目的達成に努めていく。(27)</p>	<p>履行済</p>	<p>副学長を中心として研究推進室、地域連携推進室の今後の活動計画を今年夏を目標に策定する。(27)</p> <p>研究推進室及び地域連携推進室の活動趣旨、目的、活動内容を規定化した。なお、昨年度策定した活動計画を踏まえて計画的に実施する(28)</p>
<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>大学運営の体制について、学長が多くの職を兼務することから学長を補佐する体制を整備するため副学長を置くが、その副学長を学部長が兼務することから、計画どおりの大学運営が着実に実行されるよう、学長、副学長、学部長の役割分担を改めて整理し、学内のガバナンス体制の強化に努めること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>計画通りの大学運営を行うため、副学長と学部長の兼務を専任に切り替え、副学長と学部長の役割分担を見直した。(27)</p>	<p>履行済</p>	<p>実施済み(27)</p> <p>(4月30日学部長辞任により、6月1日を目標に選任する。)</p> <p>平成27年6月1日付けで副学長・保健医療学部長就任</p> <p>副学長2人を配置し、学長を補佐する。内1人は保健医療学部長の業務も担当する。(28)</p>
<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>正課の授業は体育館を使用する事で支障はない。課外活動等においては、運動場の活用が見込まれている場合は、設置申請書類にあるとおり、「移動にかかる時間の短縮および学生の安全面の確保のため、原則本学から運動場までの移動はシャトルバスを利用する」として配慮する。(27)</p>	<p>履行済</p>	<p>実施済み(27)</p>
<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>・教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までに確実に専任教員を配置して教員を充足すること。(リハビリテーション学科)</p>	<p>留意事項</p>	<p>職位（教授）不適格になった教員及び保留となった授業科目については、1月の教員審査に准教授として申請し、認可を頂いたことにより、教員は充足されている。(27)</p>	<p>履行済</p>	<p>実施済み(27)</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 施設・設備</p> <p>a 図書館一般閲覧席104席、自習スペース21席、レファレンス3席</p> <p>b 図書4900冊、学術雑誌120種、視聴覚資料268点、機械・器具 8,642点</p> <p>c 全館無線LAN環境整備、学生へPC無償貸与</p>	<p>① 学生の修学環境をより向上するため、図書館の一般閲覧席・自習スペース・レファレンスを一般閲覧席に統合して12席増加し、図書を348冊、学術雑誌を6種、視聴覚資料6点を増書した。</p> <p>LAN環境は図書館及び講義室（情報処理学習施設）においては無線LAN環境を整備済み。その他はセキュリティーを考慮し有線LANを完備した。</p> <p>また、学生へのPC無償貸与はPCやタブレット等をすでに持っている者がほとんどのため、無償貸与を取りやめた。</p> <p>① 設置計画に伴う購入及び学生の修学環境の充実を図るため、図書4,033冊、学術雑誌61種、視聴覚資料24点、機械・器具1,383点追加した。(28)</p> <p>① 設置計画に伴う購入及び学生の修学環境の充実を図るため、図書3,8623冊、学術雑誌536種、視聴覚資料16点追加した。(29)</p> <p>① 平成29年度報告の図書冊数及び学術雑誌数について、記載ミスのため修正した。(30)</p> <p>① 設置計画に伴う購入及び学生の修学環境の充実を図るため、図書1,380冊、学術雑誌37種、視聴覚資料74点追加した。(30)</p> <p>① 理事長室を学長室へ、学長室を事務室へ室名変更した。(30)</p> <p>① 設置計画に伴う購入及び学生の修学環境の充実を図るため、図書1,150冊、学術雑誌52種、視聴覚資料136点、機械・器具524点、標本13点追加した。(元)</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

ファカルティ・ディベロップメント委員会（平成27年4月設置）

【関係規程抜粋】

- ・学則第4条（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

「本学は、授業の内容及び教授方法の改善を図るために組織的な研修及び研究を行う」

- ・ファカルティ・ディベロップメント委員会規程第2条（目的）

「委員会は、本学におけるファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）及びスタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）活動が持続的に実行されるよう、次の事項について審議するとともに、各年度におけるFD（以下「SD」を含む。）活動の推進機能を併せもつものとする。

- (1) FD活動の企画立案
- (2) FD活動の実施計画の立案
- (3) FD活動の評価
- (4) FD活動に関する情報の収集
- (5) その他、委員長の諮問事項

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

FD委員会は学長（委員長）を含め13人の教員と事務部長によって構成され、平成30年度においては6回（4/11、5/23、9/19、11/21、2/20、3/20）開催した。

c 委員会の審議事項等

- ①授業の進め方、理解度、成績評価の方法等に関する状況掌握の方法
- ②効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営に向けた研修制度の検討
- ③新任教員を対象とした研修方法の検討
- ④臨床実習指導法の検討

② 実施状況

a 実施内容

- ①自己点検評価に関するFD研修
- ②学生による授業評価と結果の公表
- ③教員相互の授業参観と評価
- ④臨床実習指導方法に関する講習会
- ⑤他大学の教育方法の研修
- ⑥教育方法改善検討会

b 実施方法

- ①自己点検評価に関するFD研修

平成28年度の自己点検・評価を使用して、自己点検・評価の概要を理解し、業務に携わる教職員も携わらない教職員も本学の良い点・改善点を理解できた。

- ②学生による授業評価アンケート

前期・後期に開講される全ての科目を対象に、原則として授業最終日に授業改善アンケートを実施。集計結果は授業担当教員にフィードバックされるとともに、次年度の授業運営における参考として活用した。また、学生から集計結果の公開について希望があった場合は、事務局にて公開することとした。

- ③教員相互の授業参観

効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営方法等について、前期1科目、後期1科目を対象として授業参観を実施した。実施後、参観した教員にはワークシートを提出してもらい、自分の授業運営への活用案や、今後の授業参観の実施方法に関する改善点等について情報収集を行った。

④臨床実習指導法の研修

2020年度入学生から適用される理学療法士作業療法士臨床実習指導者の要件および臨床実習指導者講習会の概要について研修を行った。

⑤他大学の教育方法の研修

教育方法の質の向上のため、全国に公開されているFD講習会に教職員が参加し、先行する他大学の教育方法の伝達を年に1~2回実施した。

⑥教育方法改善検討会

教育方法について年度末に改善点や、導入意義のありそうな他大の教育内容についてディスカッションした。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

①自己点検評価に関するFD研修

副学長1名、リハビリテーション学科24名、看護学科33名、事務職員13名で研修を行い、自己点検評価について理解を深めた。

②学生による授業改善アンケート

前期授業（95科目）、後期授業（86科目）の最終日、履修者全員にアンケート用紙を配布し、（15分間）で回答・回収した。

③教員相互の授業参観

【第1回】 日時：平成30年 6月12日（木） 科目名：義肢装具学Ⅱ 参加教員数：5人

【第2回】 日時：平成30年12月 7日（金） 科目名：基礎運動学 参加教員数：4人

④臨床実習指導法の研修

2020年度入学生から適用される理学療法士作業療法士臨床実習指導者の要件および臨床実習指導者講習会の概要について、実習施設及び実習関係者（計20名）を対象に研修を行った。

⑤⑥他大学の教育方法の研修、教育方法改善検討会

作業療法学専攻講師より立命館大学の『学習支援方法の検討～成績不振学生に対して～』を行い、教育方法改善検討会に同発表をもとに、学内の講義や学生指導にどう活かせるかグループワークを実施した。

参加状況：副学長1名、学長補佐1名、リハビリテーション学科19名、看護学科18名、事務職員15名
計54名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成30年度について、授業参観実施結果等を教職員全体で情報共有を行い、授業改善につなげている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期・後期に開講される全ての科目を対象に、原則として授業最終日に授業改善アンケートを実施。集計結果は授業担当教員にフィードバックされるとともに、次年度の授業運営における参考として活用した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

学生から集計結果の公開について希望があった場合は、図書館にて公開することとした。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

<p>① 体制</p> <p>a 委員会の設置</p> <p>b 委員会の関係</p> <p>c 委員会の審議</p> <p>d その他</p> <p>② 審議状況</p> <p>a 審議した内容 (記入例)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域との連携・ 産業界との連携 <p>b 教育課程連携</p> <p>c 教育課程連携</p>	<p>該 当 な し</p>
---	----------------

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>大学開設5年目を迎え、設置の趣旨・目的に沿って教育体制を整備し、予定された授業科目も計画に沿って開設されている。教員配置についても、やむを得ない事情により就任辞任者及び退職者が1名ずついたが、速やかに後任補充を行い、適切に設置計画が着実に履行されている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学生の受入れについては、計画的な広報活動のもと、入学定員80人に対し志願者353人であり、また、入学者の選抜についてはアドミッションポリシーにもとづく選考を実施し、86人の新入生を受入れ入学定員超過率は1.08倍（小数点以下第2位迄）となっている。・ 学修指導については、大学の教育方針を踏まえ、きめ細かな助言・指導を行うため、クラス担任制（1クラス41人～46人につき専任教員2人で担当）を導入し、個別面談により学修に関する助言・指導を行うとともに、生活面でのフォローにあたっている。・ 新入生については、入学時のオリエンテーションガイダンスを通じて、リハビリテーション学科設置の趣旨に関する理解促進を図るとともに、学生便覧、シラバス、及び科目進行表等により、4年間にわたる系統的な学修計画の説明・指導を行った。・ 2、3、4年生についても、オリエンテーションガイダンスにおいて、将来の進路を踏まえた学修計画について理解促進を図るとともに、専門科目に関する興味の醸成を図った。・ 単位の過剰登録を防ぐためCAP制を導入し、半期25単位、通年で45単位を上限とすることを授業科目履修規程に追記するとともに、学生便覧に明記し学生に周知した。・ 実習科目については事前に研修会を実施し、効果的な学習ができるよう教員間で情報共有を図ることで質・量的にばらつきのない平準的な授業運営を担保した。・ 教員の教育力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント（FD）の取り組みの一環として、FD委員会を設置し、学生による授業評価アンケート、教員相互の授業参観、臨床実習に向けた指導方法に関する講演会、新任教員を対象とした教育方法、学生指導に関する研修等を企画実施した。・ 授業改善アンケートは、前期・後期の授業最終日に実施し、集計結果は授業担当教員にフィードバックされるとともに、次年度の授業運営における参考として活用されている。また、公開を希望する学生については、事務局にて公開する対応をとっている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成30年度分を令和元年度中に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公表予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和3年度までに評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受ける予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元 年 7 月 1 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。